

医史学関係文献目録 (五十音順)

平成元(一九八九)年

順天堂大学医史学研究室編

18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01
外科史	形成外科史	軍陣医学史	教室史	寄生虫学史	看護史	眼科史	解剖学史	衛生・公衆衛生史	医療制度史・医療史	医療器械	医の倫理	医史学一般	医師会・学会	医学用語	医学教育	医学切手・書画	単行本
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
生化学史	西洋医学史	生物学史	精神医学史	整形外科史	診断学史	神経学史	小児科史	書誌学	書簡	獣医学史	種痘史	耳鼻咽喉科史	疾病史	史跡・記念碑	歯学史	産婦人科史	細菌学史

37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	
生理学史	地方史	治療史	伝記	伝記(双)	伝染病史・防疫史	東洋医学史	内科史	皮膚科史	病院史	病跡学	病理学史	風俗史	仏教医学史	法医学史	放射線医学史	本草学・博物学史	麻醉学史	門人録	薬学史	蘭学史	リハビリテーション関係史	その他	中国語文献	欧文文献	今回は14、15、17、30、31、48、50、52、58にあたる文献はありません。

01 単行本

- 『安藝英雄感話集 1オリオンの光の下で 2いてふに寄す』安藝英雄 みすず書房
- 『歴史のなかの医学―府内の医療史―』荒巻逸夫
- 『日本科学史の射程』講座 科学史 4)伊藤俊太郎・村上陽一郎共編(吉田忠・矢部一郎・大塚恭男ら執筆) 培風館
- 『岩手医科大学六十年史―最近十年間のあゆみ―』岩手医科大学六十年史編纂委員会 岩手医科大学

『ナイチンゲールって、すごい』エキスパートナース編集部（発行）照林社（発売）小学館

『旧約聖書の医学』W・エプシュタイン 梶田昭詔 時空出版

『平和の勇者・ドクター・ジュノー』大佐古一郎 蒼生書房

『スキャンダルの科学史』科学朝日編 朝日新聞社

『鹿児島市医師会病院誌(5)』鹿児島市医師会病院

『癌研究会七十五年史』(財)癌研究会七十五年史編纂委員会

『看護学生のための日本看護史』看護史研究会 医学書院

『山本病院—源流とその歩み—』久寶博調査・編著 記念誌編集委員会監修 山本病院発行

『東京都眼科医学会七〇年史』小暮文雄（責任編集） 東京都眼科医学会

『ハンセン病一〇〇年・ライと涙とマリア様』小坂井澄 図書出版社

『ギリシア文明と狂気』ベネット・サイモン 石渡隆司・藤原博・酒井明夫訳 人文書院

『医療の昭和史』酒井シヅ監修 バイエル薬品

『シシリー・ソングダース ホスピス運動の創始者』若林一美訳 日本看護協会出版会

『市立静岡病院建設落成記念誌—創立一二〇周年記念—』静岡市立静岡病院

『明治前期高梁医療近代化史』柴多泰 高梁市医師会創立四〇周年記念出版 高梁市医師会

『備前瘤』新宮義弘 新宮義弘発行

『近代西洋文明との出会い—黎明期の西南雄藩—』杉本勲編（向井晃・矢部一郎・酒井シヅ・斎藤進ら） 思文閣出版

『日本の祭祀』宗田一 日本ベーリンガー・インゲルハイム社

『史話の詮議 落穂百話』高山坦三 ABC出版株式会社

『この生この死—江戸人の死生観—』立川昭二 筑摩書房

『宇田川家三代墓所移転事業完成記念 宇田川三代の偉業』津山洋学資料館

『我が国近代科学の創始者・宇田川三代の偉業』津山洋学資料館（宗田一他） 津山洋学資料館

『シーボルト記念館資料目録(1)』長崎市教育委員会 シーボルト記念館

『日本医学図書館協会六十年略史』日本医学図書館協会将来計画委員会・協会史編纂部会 日本医学図書館協会

『日本大学学祖・山田顕義伯爵の墓所整備に伴う学術調査報告書』日本大学

『洋学』沼田次郎 日本歴史叢書40 日本歴史学会編集 吉川弘文館

『世界的な医学者・野口英世その生涯』野口英世記念会

『東京帝大医学部総理・池田謙齋伝』長谷川つとむ 新人物往来社

『平井圭斎—山村の医療にその生涯を捧げた仁徳の医師—』羽田曄 自費出版

『浪速の町医師・上田秋成』濱光治 思文閣出版

『二〇世紀の女性科学者たち』ルイス・ハーバー 石館三枝子・

中野恭子訳 晶文社

『ヒロシマ 医師のカルテ』広島市医師会

『福井県医師会史 第三巻資料編』福井県医師会

『藤岡多野医師会史』藤岡多野医師会小史(2)

『人体解剖のルネサンス』藤岡尚男 平凡社

『北海道対がん協会・六〇年の回顧』北海道対がん協会

『風雪に耐えて・吉田病院史覚書』松田方一 自費出版

『丸山博著作集(全三巻)』1 死児をして叫ばしめよ 2 いま改めて衛生を問う 3 食生活の基本を問う』丸山博 農文協

『三浦豊彦著作目録並びに履歴』三浦豊彦 三浦豊彦博士の喜寿を祝う会

『労働と健康の歴史 第六巻』三浦豊彦 三浦豊彦博士の喜寿を祝う会

『水戸市医師会史 第二巻(1)(2)』水戸市医師会

『病いの戦後史―体験としての医療から―』向井承子 筑摩書房

『医学史ものがたり』山本徳子 新興医学出版社

『道教と不老長寿の医学』吉元昭治 平河出版社

『歴史上の人物 生と死のドラマ』ネストール・ルハン 酒井シヅ監訳 朝メデイカルトリビューン

02 医学切手・書画

『メデイカル・フィラテリー 法華寺の守り犬』石原理年『醫

譚』(五七)五

『メデイカル・フィラテリー 神農さんの虎』石原理年『醫譚』

(五七)一一一

『メデイカル・フィラテリー 箕作阮甫と津山洋学資料館』石原理年『醫譚』(五七)一四

『切手で見る免疫血液学(三三六) AIDS 撲滅キャンペーン』河瀬正晴 Med Postgrad 二七(一)

『切手で見る免疫血液学(三七七) B型肝炎』河瀬正晴 Med Postgrad 二七(一)五二

『切手で見る免疫血液学(三八八) 血液の酸素運搬能』河瀬正晴 Med Postgrad 二七(一)五六

『切手で見る免疫血液学(三九九) 瀉血療法(四〇〇) 遺伝子工学』河瀬正晴 Med Postgrad 二七(四)五四、八二

『切手で見る免疫血液学(四一一) ガン血清診断(四二二) 顆と免疫』河瀬正晴 Med Postgrad 二七(五)五六、七〇

『切手で見る免疫血液学(四三三) 輸血(四四四) ノーベル生理学・医学賞』河瀬正晴 Med Postgrad 二七(六)九七〜九八

『医学切手美術館七 国際障害者年』河瀬正晴『透析ライフ』(三〇)二五

『医学切手美術館八 病気との戦い』河瀬正晴『透析ライフ』(三二)二五

『医学切手美術館九 病院内光景』河瀬正晴『透析ライフ』(三二)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

『医学切手美術館一〇 献血』河瀬正晴『透析ライフ』(三三)二五

二五

「切手に描かれたベーリング」河瀬正晴『ベーリングダイアグノスティックスプレス』三(一)

『米欧回覧実記』と『輿地誌略』の挿画銅版画—明治初期の外
国風景風俗写真の模刻—菅野陽『日本洋学史の研究Ⅸ』
一七七～二一九

「シーボルト自筆のアメリカニンジン図」宗田一『科学技術文献
サービス』(九〇)三二

「Wells 記念切手運動の意味」中原泉『日本歯科医史学会々誌』
一五(三)二二六～二二八

「鞆の浦十一面観音像について」第一報、抄」長谷川正康『日本
歯科医史学会々誌』一六(一)二四

03 医学教育

「一九世紀の西ヨーロッパ(大陸)における高等教育システムの
変遷—医学部の場合—」石田純郎『洋学資料による日本文化史
の研究』(Ⅱ)一〇三～一一五

「医学教育の役割と問題点」大村敏郎『医学のあゆみ』一五一
(九)五五五～五五七

「明治初年のドイツ医学の導入について—ドイツ側新史料による
東京大学史補遺—」鹿子木敏範『東京大学史紀要』(七)三
二〇

「第一大学区東京医学校」なる校名」小関恒雄『日本医史学雑
誌』三五(一)八二～八四

「ヨーロッパ最古の大学ポローニヤの医学(下)」鈴木侃(日経

BP)『日経メディカル』一八(一)二〇八～二〇九

「湯爾和と北京医学専門学校」(抄)寺畑喜朔『日本医史学雑誌』
三五(一)一二七～一二九

「The Sources and Developments of the Japanese Medical
Thought (日本における医学観の根源と発展)」NAGASE,
Osamu『日本医史学雑誌』三五(三)三五八～三七二

「歯科教育審議会に於いて決定せる教授要綱」三谷三雄、弓削朝
子、坂本嘉久、金子守男『日本歯科医史学会々誌』一五(三)
二五〇～二五五

04 医学用語

「ことばの由来」ダーウィン結節(耳介結節)について」飯田
収 JOHNS 五(七)一〇〇六～一〇〇九

「古典あれこれ」パプロフと犬」飯沼壽孝 JOHNS 五(六)
八九二～八九四

「古典あれこれ」鼻鏡の話」飯沼壽孝 JOHNS 五(一一)

「ことばの由来」阿片とマリファナ」岩月賢一 JOHNS 五(三)
三八八～三八九

「ことばの由来」小兒と老人」岩月賢一 JOHNS 五(九)一二
八〇～一二二

「ことばの由来」風邪とそれに関連した言葉の語源」
Hugh E. Wilkinson 伊藤裕之訳 JOHNS 五(五)七五〇～
七五三

- 「ことばの由来 小児に多い伝染性疾患の語源―はしか・風疹・おたふくかぜ・百日咳・水痘―」Hugh E. Wilkinson 伊藤裕之 訳 JOHNS 五(一一)一六四〇～一六四二
- 「精神障害」の用語は適切か」岡田靖雄『季刊職リハネットワーク』(四)三～六
- 「花粉症―アレルギー性結膜炎病名史―」奥沢康正『日本の眼科』六〇(三)一八七～一九〇
- 「翼状片(Pterygium)の病名史」奥沢康正『日本の眼科』六〇(五)三七三～三七四
- 「古典あれこれ A. Polizer と『耳科学史』」貝塚侑 JOHNS 五(一二)二四三～二四五
- 「古典あれこれ 鼓膜の穴」貝塚侑 JOHNS 五(八)一一四七～一一五〇
- 「バルリン大学医学部と日本」(抄)ゲオルク・ハーリヒ『日本医学雑誌』三五(一二)一一一～一一四
- 「ことばの由来 水」鈴木安恒 JOHNS 五(一)一二四～一二五
- 「古典あれこれ 明治の初めの耳鏡検査」廣瀬肇 JOHNS 五(四)六一〇～六一二
- 「古典あれこれ マヌエル・ガルシアの観察と推論」廣瀬肇 JOHNS 五(一〇)一五〇八～一五一一〇
- 「病名の由来 仮性小児コレラ」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(一)四〇
- 「病名の由来 麻疹(ハシカ)」深瀬泰旦 Medical Technology

- 一七(二)一二七
- 「病名の由来 天然痘(痘瘡)」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(三)二八九～二九一
- 「病名の由来 百日咳」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(四)三七三
- 「病名の由来 おたふく風邪(流行性耳下腺炎)」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(五)四三〇
- 「病名の由来 破傷風」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(六)五二七
- 「病名の由来 疫病」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(七)六三七
- 「病名の由来 ポリオ」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(九)九五三
- 「病名の由来 日本脳炎」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(一〇)一〇一七
- 「病名の由来 水痘」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(一一)一一三三
- 「病名の由来 風疹」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(一二)一一九九
- 「病名の由来 インフルエンザ」深瀬泰旦 Medical Technology 一七(一三)一二七五

05 医師会・学会

- 「日本医師会小史 第五九回 明治初期から中期の病院料金―医

- 師会前史・その五―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二(一)
一〇九(一)―
- 〔日本医師会小史 第六〇回 明治初期から中期の病院料金(統)
―医師会前史・その六―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二
(三)五〇三～五〇五〕
- 〔日本医師会小史 第六一回 開業医師の協定料金の変遷(I)
―医師会前史・その七―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二
(五)八〇五～八〇七〕
- 〔日本医師会小史 第六二回 開業医師の協定料金の変遷(II)
―医師会前史・その八―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二
(七)一〇九四～一〇九七〕
- 〔日本医師会小史 第六三回 開業医師の協定料金の変遷(III)
―医師会前史・その九―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二
(九)一五六―一五六三〕
- 〔日本医師会小史 第六四回 医師制度の整備と漢方医の抵抗
―医師会前史・その一〇―青柳精一『日本医師会雑誌』
一〇二(一一)一九二九～一九三一〕
- 〔日本医師会小史 第六五回 医会組織の再編成すすむ―医師会
前史・その一一―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二(一)
七五～七七〕
- 〔日本医師会小史 第六六回 『東京医会』と『京都医会』―医師
会前史・その一二―青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二(三)
三九七～三九九〕
- 〔日本医師会小史 第六七回 医業分業運動と医界の動き―医師

会前史・その一三』青柳精一『日本医師会雑誌』一〇二(六)
七九九～八〇一

〔日本医師会小史 第六八回 医師法制定までの長い道程(第一
回)―医師会前史・その一四』青柳精一『日本医師会雑誌』
一〇二(八)一一三～一一五〕

〔日本医師会小史 第六九回 医師法制定までの長い道程(第二
回)―医師会前史・その一五』青柳精一『日本医師会雑誌』
一〇二(一一)一四九五～一四九七〕

〔日本医師会小史 第七〇回 医師法制定までの長い道程(第三
回)―医師会前史・その一六』青柳精一『日本医師会雑誌』
一〇二(一三)一七三七～一七三九〕

〔医学史ミニ博物館四〇 サン・コーム組合の円形講堂』大村敏
郎『医学のあゆみ』一五〇(九)六一八

〔第九〇回日本医学学会総会 医学史料展』『南斗』(人吉市医師
会)(三三)二～四

06 医史学一般

『ヒポクラテス『医師の誓い』をめぐるの歴史的考察(抄)』今
井正浩『日本医史学雑誌』三五(二)一九二～一九四

〔古今東西医の事始め』医の事始め』西洋(一)六一、一東
洋(二)六一』蔵方宏昌『看護学生』三七(二)六一、(三)
六一

〔古今東西医の事始め』解剖学の始まり』西洋(三)、一東
洋(四)』蔵方宏昌『看護学生』三七(三)六一(四)六一

- 「八古今東西医の事始め」帝王切開事始め—西洋(五)、—東洋(六) 蔵方宏昌『看護学生』三七(五)六一、(六)六一
- 「八古今東西医の事始め」輸血の事始め」蔵方宏昌『看護学生』三七(七)六一
- 「八古今東西医の事始め」麻醉の事始め」蔵方宏昌『看護学生』三七(八)六一
- 「八古今東西医の事始め」脳外科の事始め」蔵方宏昌『看護学生』三七(九)六一
- 「Western Medicine in Japan During the seventeenth Century」SAKAI, Shizu Journal of the Japan-Netherlands Institute 一九~二〇
- 「世界の医療文化史(七七)五 興隆の世紀」宗田一 Phanna Medica 七(一一)一七八—一八三
- 「典薬頭と屠蘇調進」宗田一『和漢薬』(四二八)一一一—一六
- 「手術部の歴史について」高木忠信『日手術部医学会誌』一〇(一)三七七~三八五
- 「幕末医外史(第三回)」玉置勉『東京医師会誌』四二(五)八一七~八一九

07 医の倫理

- 「いわゆる『インフォームド・コンセント』の日本の理解について」浅野尚『千葉県医師会雑誌』四一(一〇)三六~三八
- 「医とこころ 一六回 医学史にみる医師と患者 その一 古代の医師と患者関係」酒井シヅ『月刊循環』(九五)二二~二五

- 「医とこころ 一七回 医学史にみる医師と患者 その二 宗教的医学と科学的医学」酒井シヅ『月刊循環』(九六)二一~二五
- 「医とこころ 一八回 医学史にみる医師と患者 その三 日本の医師患者関係」酒井シヅ『月刊循環』(九七)二三~二六
- 「医とこころ 第一九回 名医に学ぶ医のありかた その一生 命への尊敬を信条とした黒川利雄先生」高橋功『循環』一〇(五)一一~一四
- 「医療史にみる医の心」竹中普久『日本医師会雑誌』一〇二(八)一〇九一~一〇九四
- 「医学倫理学の将来像」馬文元、彭慶星『医事学研究』(三)三四三~三五二
- 「『医』の史的鳥瞰—医の心は神の心—」三木栄『日本医事新報』(三四一四)五九~六一

08 医療器械

- 「聴診器の変遷(一)序章 Laence 以前」坂本二哉『診断と治療』七七(一)一九二~一九四
- 「聴診器の変遷(二)Laence と聴診器の発明」坂本二哉『診断と治療』七七(二)四二〇~四二二
- 「聴診器の変遷(三)聴診器の改造」坂本二哉『診断と治療』七七(三)六四八~六五〇
- 「聴診器の変遷(四)聴診器の改造にまつわる挿話」坂本二哉『診断と治療』七七(四)八五四~八五六
- 「聴診器の変遷(五)双耳式可携性聴診器の発明とその後」坂本

二哉『診断と治療』七七(五)九二二～九二三

「聴診器の変遷(六) 聴診法の黄金時代と発見の歴史」坂本二哉

『診断と治療』七七(六)一五六八～一五七二

「聴診器の変遷(七) Rappaport と Sprague の業績」坂本二哉

『診断と治療』七七(七)一七六六～一七七二

「聴診器の変遷(八) Rappaport と Sprague の業績(続)」坂本二哉

『診断と治療』七七(八)一九九六～二〇〇二

「聴診器の変遷(九) 第二次大戦以後の歩み」坂本二哉『診断と治療』七七(九)二一九〇～二一九二

「聴診器の変遷(一〇) Groom らの業績」坂本二哉『診断と治療』七七(一〇)二二六九～二二七二

「聴診器の変遷(一一) 聴診器のテスト」坂本二哉『診断と治療』七七(一一)二九九二～二九九五

「聴診器の変遷(一二) 現代の聴診器(一) — Leatham 型聴診器 —」坂本二哉『診断と治療』七七(一二)三二七四～三二七八

「聴診器の変遷(一三) 産めよやせよ」野村拓『月刊保団連』(三〇〇)八二～八五

「昭和医療史(一四) 太平洋戦争・前夜」野村拓『月刊保団連』(三〇二)八二～八五

「昭和医療史(一五) 国民医療法の背景」野村拓『月刊保団連』(三〇四)八八～九一

「昭和医療史(一六) 日本医療団」野村拓『月刊保団連』(三〇六)八八～九一

「昭和医療史(一七) 敗色のなかで」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(一八) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(一九) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(二〇) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(二一) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(二二) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(二三) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「国民医療法と医・歯一元論」(抄) 金子守男、鈴木邦夫、池田かのり、谷津三雄『日本歯科医学史学会誌』一六(一)五五～五六

「日本の医療史(六六) 養生の移り変わり」酒井シツ『薬事新報』(一五五八)一〇四五～一〇五一

「医薬分業史に関する文献学的研究(第一報) 医薬分業活動の歴史の変遷とその考察」中村健、永喜美和子、飯塚桂子、藤井正美『薬史学雑誌』二四(二)一五八～一八〇

「医薬分業史に関する文献学的研究(第二報) 医薬分業関連書籍の全貌と書籍内容の各種考察」中村健、永喜美和子、飯塚桂子、藤井正美『薬史学雑誌』二四(二)一八一～一九四

「昭和医療史(二二) 体力政策」野村拓『月刊保団連』(二九六)八二～八五

「昭和医療史(二三) 産めよやせよ」野村拓『月刊保団連』(三〇〇)八二～八五

「昭和医療史(二四) 太平洋戦争・前夜」野村拓『月刊保団連』(三〇二)八二～八五

「昭和医療史(二五) 国民医療法の背景」野村拓『月刊保団連』(三〇四)八八～九一

「昭和医療史(二六) 日本医療団」野村拓『月刊保団連』(三〇六)八八～九一

「昭和医療史(二七) 敗色のなかで」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(二八) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(二九) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三〇) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三一) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三二) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三三) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三四) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三五) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三六) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三七) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

「昭和医療史(三八) 骨を撒きちらして」野村拓『月刊保団連』(三一〇)八四～八七

(三二一) 七八～八一

「昭和医療史(一九) 混乱のなかで」野村拓『月刊保団連』

(三二二) 九二～九五

「昭和医療史(二〇) 占領下の医療行政」野村拓『月刊保団連』

(三二三) 七六～七九

「昭和医療史(二二) 空腹でも意欲的」野村拓『月刊保団連』

(三二七) 八六～八九

「昭和医療史(二二) 医療統計の整備」野村拓『月刊保団連』

(三一九) 八四～八七

「昭和医療史(二三) ゆりかごの社会保障」野村拓『月刊保団連』(三三〇) 七二～七五

一 一一～一五

「我が国医療史からの所感」羽田春兔『徳島医師会報』(二一八)

一 一一～一五

「明治初期の医師数の推移」深瀬泰且『科学医学資料研究』

(一七〇) 六～七

10 衛生・公衆衛生史

「黎明期の労働衛生史(八一) 大島①高任近代製鉄の父」乾修

然『労働衛生ジャーナル』(一五六) 二

「黎明期の労働衛生史(八二) 大島高任②高炉に取り組む」乾修

然『労働衛生ジャーナル』(一五七) 二

「黎明期の労働衛生史(八三) 大島高任③製鉄業の夜明け」乾修

然『労働衛生ジャーナル』(一五八) 二

「黎明期の労働衛生史(八四) 大島高任④米欧回覧実記」乾修然

『労働衛生ジャーナル』(一五九) 二

「黎明期の労働衛生史(八五) 大島高任⑤晩年」乾修然『労働衛生ジャーナル』(一六一) 二

二

「黎明期の労働衛生史(八六) 大島高任⑥官営釜石鉄山」乾修然

『労働衛生ジャーナル』(一六二) 二

「ポーランドにおける労働法の起源と発展(一九一八～一九三九年)」C・クラウツァク、J・ビエルスキ『乾修然訳「労働の科学」四四(五)五二～五四

の科学」四四(五)五二～五四

「養生の移り変わり」酒井シヅ『安の津医報』(三一六) 二～

一一

「春日局の健康法」酒井シヅ『THP』(一) 四

「歴史的観点からみた新しい公衆衛生の動向(一)」Elizabeth Fee

(訳文)『科学医学資料研究』(一七九) 一～七

「歴史的観点からみた新しい公衆衛生の動向(二)」Elizabeth Fee

(訳文)『科学医学資料研究』(一八〇) 一～八

「結核の比較文化史序説―問題の提起と可能性について―」福田

真人『名古屋大学総合言語センター言語文化論集』X(一)

一三～三七

「産業革命と肺病―結核の比較文化史―」福田真人『名古屋大学

総合言語センター言語文化論集』X(二) 一三～四二

「結核と女工哀史―結核の比較文化史―」福田真人『名古屋大学

総合言語センター言語文化論集』XI(一) 一～二四

「文明は病気を変える」三」松藤元『労働衛生ジャーナル』

(一五二) 三

- 「文明は病氣を変える 四」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一五三)三
- 「文明は病氣を変える 五」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一五四)三
- 「文明は病氣を変える 六」職業病と労働災害」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一五六)三
- 「文明は病氣を変える 七」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一五七)三
- 「文明は病氣を変える 八」石器から金属器へ」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一五八)三
- 「文明は病氣を変える 九」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一五九)三
- 「文明は病氣を変える 一〇」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一六〇)三
- 「文明は病氣を変える 一一」天然物から合成物へ」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一六一)三
- 「文明は病氣を変える 一二」天然物から合成物へ」松藤元『労働衛生ジャーナル』(一六二)三
- 「サテライト通信(二七)アラカルフ」三浦豊彦『労働の科学』四四(三)三六～三七
- 「サテライト通信(二八)紀元前に記載された雪盲」三浦豊彦『労働の科学』四四(四)一一～一二
- 「サテライト通信(二九)『公害』という言葉」三浦豊彦『労働の科学』四四(五)四二～四三

- 「サテライト通信(三〇)チェルノブイリ原発事故の後遺症」三浦豊彦『労働の科学』四四(六)四〇～四一
- 「目で見える労働と健康の歴史(その六)——日本の産業化の進行——」三浦豊彦『労働科学研究所維持会資料』一二二五～一二二六、一～一三
- 「鉛中毒の歴史(四)初期蓄電池工場の鉛中毒 付・鉛銃弾と鉛中毒」三浦豊彦『科学医学資料研究』(一八一)一～八
- 「宋應星の『天工開物』(一六三七年刊)と労働衛生」(抄)三浦豊彦『日本医史学雑誌』三五(二)一七四～一七六

11 解剖学史

- 「解体新書にみる脈管学(一)」大城孟 Med Postgrad 二七(一)一一～三八
- 「解体新書にみる脈管学(二)」大城孟 Med Postgrad 二七(二)九一～一〇六
- 「解体新書にみる脈管学(三)」大城孟 Med Postgrad 二七(三)一四八～一六三
- 「ポートルートでたどる形態学の歩み(六)」河西達夫『ミクロスコピア』六(二)一一八～一二一
- 「わが国における人体解剖のルーツを訪ねて」河西達夫、千葉正司『日本医事新報』三四〇二 五一～五二
- 「A. Vesalius の解剖書の図に就いて」(抄)酒井恒『日本医史学雑誌』三五(二)一九七～一九八
- 「ヒト心臓における房室伝導系のマクロ的・微細解剖」清水進『心

臓』二一(二)一二九～一四一

「近代解剖学を樹立したヴェサリウスの革命」鈴木侃『日経メデ
ィカル』一八(四)一八四～一八五

「北陸の解剖略史補遺—石川県の特志病体解剖について—」寺畑
喜朔『北陸医史』一〇(一)五七～六二

「解剖図に関する一考察『カウパー解剖図』から『解剖存真図』
への『変容』を手掛かりにして」布施英利『日本医史学雑誌』
三五(一)七二～八一

12 眼科 史

「わが国初の洋式目薬『精錫水』とその時代」天野宏、斎藤明美、
杉原正泰『薬史学雑誌』二四(一)五五～六〇

「精錫水の広告と売薬論争」天野宏、斎藤明美、杉原正泰『薬史
学雑誌』二四(二)一三一～一三八

「眼科症候群名に冠した人名辞典の作成」(抄)奥沢康正『日本
医史学雑誌』三五(二)一八九～一九〇

「京都の眼科医たち」奥沢康正『啓迪』(七)一四～二二
翼状片(Pterygium)の病名史」奥沢康正『日の眼科』六〇
(五)二七三～二七四

「文庫の窓から『眼科学』」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨
床眼科』四三(一)九八～九九

「文庫の窓から『歌氏眼科学』」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男
『臨床眼科』四三(二)二七六～二七七

「文庫の窓から『検眼鏡用法』」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男

『臨床眼科』四三(三)四七〇～四七一

「文庫の窓から『諸人心得 眼病論』」中原行信、中原行史、斎
藤仁男『臨床眼科』四三(四)六六四～六六五

「文庫の窓から『医科全書 眼科篇』」中泉行信、中泉行史、斎
藤仁男『臨床眼科』四三(五)八七四～八七五

「文庫の窓から『眼科学』」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨
床眼科』四三(六)一〇六〇～一〇六一

「文庫の窓から『結膜病図解』」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男
『臨床眼科』四三(七)一二二～一二三

「文庫の窓から『井上眼療書 卷之一 撰生篇』」中泉行信、中
泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四三(八)一三〇八～一三〇九

「文庫の窓から『井上眼療書 内障眼手術篇(完)』」中泉行信、
中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四三(九)一四一六～一四
一七

「文庫の窓から『東校医院治験録』」中泉行信、中泉行史、斎藤
仁男『臨床眼科』四三(一一)一七八六～一七八七

「文庫の窓から『眼科学 保利真直纂著』(その二)」中泉行信、
中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四三(一二)一八八四～一八
八五

「文庫の窓から『眼科学 保利真直纂著』(その二)」中泉行信、
中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四三(一三)一九七八～一九
七九

13 看護史

『看護教程草案(看護看護婦用)』第一卷(昭和一七年四月刊) についての第三報(抄) 植木清二、湯浅高之、小林一日出、飯淵義久、荒井照夫、屋代正幸『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一四一五

「戦後の看護制度看護教育制度の改革とそれへの対応」あるケースから」長門谷洋治『北陸医史』一〇(一)五二一五四

『看護教程草案(看護看護婦用)』第一卷(昭和一七年四月刊) についての補遺(抄) 湯浅高之、植木清二、藤野坦男、斎藤憲一、西村好一、屋代正幸『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一五一六

16 軍陣医学史

「軍陣歯科学(第四報)」落合俊輔、吉井秀鑄、谷津三雄、滝口久、新国俊彦『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一九一〇

「明治戊辰戦争越後口派遣会津藩従軍医師の記録 医師江川元逸(一八三二一八九二)」「旧記輯録」より(上) 蒲原宏『新潟医師会報』(四六八)六七一六九

「明治戊辰戦争越後口派遣会津藩従軍医師の記録 医師江川元逸(一八三二一八九二)」「旧記輯録」より(下) 蒲原宏『新潟医師会報』(四六九)四九一五一

「戊辰戦役余話(その一) 徳川軍従軍医をめぐって」中西淳朗

『月刊保団連』(二九六)四四一四五

「戊辰戦役余話(その二) 紀州よりの引き揚げ」中西淳朗『月刊

保団連』(三〇〇)五二一五三

「戊辰戦役余話(その三) 近藤勇のこと」中西淳朗『月刊保団連』(三〇二)四八一四九

「軍陣歯科の小史」(抄) 谷津三雄『日本医史学雑誌』三五(一)一六四一六六

18 外科史

「ヘルニア」ヘルニア治療方法の歴史」石川浩一『外科ANOOK』(五二)一一〇

「手術部の歴史について(会)」高木忠信『日手術部医会誌』一〇(一)六一七

19 細菌学史

「北里柴三郎飛躍の基盤 破傷風菌純培養一〇〇年」大村敏郎『臨床外科』四四(四)五三九一五四

「消毒法の歴史について(Ⅱ)」本間邦則『日本歯科医史学会々誌』一五(三)二一〇一二一五

「消毒法の歴史について(Ⅲ) — 外科無菌法の開拓者テリオンと手術用ゴム手袋の発明者ハルステッドについて —」(抄) 本間邦則『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一一一〇二二

「緑膿に気付いた先師たち」山中太木『緑膿菌研究会二二三回講記録』一一一

20 産婦人科史

「助産婦の歴史(七五)」石原力『ペリネイタルケア』八(一一)一二七七～一二七九

「相良藩の帝王切開術伝承について」(抄)鳥越謙一『日本医史学雑誌』三五(二)一六八～一七〇

「『紫式部日記』の産産・産養いに見られる医療思想」(抄)長瀬治『日本医史学雑誌』三五(二)一五八～一五九

21 歯学史

「歯科学説彙纂」と『近世歯科臨床講義第貳版』について」(抄)池田かのり、山口秀紀、吉井秀鏑、清澤美智子、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六四～六五

「歯みがきのラベル考」(抄)谷津三雄、渋谷敏、石橋肇、坂本嘉久『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三三～三四

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その一)」——第十二編遠藤至六郎著『口腔外科通論及手術学』について」(抄)太田実、小幡哲夫、西尾宏英、森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)五一～五二

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その八)」——第八編遠藤至六郎著『口腔外科診断学』および『新制口腔外科診断学』について」(抄)太田実、小坂剛也、小幡哲夫、森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)四四～四五

「第五回内国勸業博覧会歯科出品物の審査結果 第二報歯磨について」大橋正敬、後藤尚久、廣瀬英晴、菅原明喜、白井潔、小

堀雅教『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二八七～二九六

「第五回内国勸業博覧会歯科出品物の審査結果 第三報歯ブラシおよび楊枝について」大橋正敬、長谷川清、竹井満久、菅原明喜、深瀬康公、小堀雅教『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二九七～三〇二

「第五回内国勸業博覧会歯科出品物の審査結果 第二報歯磨について」(抄)大橋正敬『日本歯科医史学会々誌』一六(一)二二三

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その六)」——第六編矢崎正方著『最近継統架工術』および第十三編矢崎著『齒冠継統架工学』について」(抄)小幡哲夫、杉山邦夫、白川尚、熱田俊之助、森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)四二～四三

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その七)」——第七編矢崎正方著『局部義歯学』および第一五編『新制局部義歯学』について」(抄)小幡哲夫、白川尚、熱田俊之助、市之川武、森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)四三～四四

「歯科用内視鏡の開発とその歴史的考察」(抄)片桐正隆『日本歯科医史学会々誌』一六(一)二〇～二一

「歯科に関する引札」(抄)坂本嘉久、谷津三雄、渋谷敏、石橋肇『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三四

「衛生日本の回顧にみられる歯科に関する史料」(抄)坂本嘉久、出地弘、吉田直人、吉田和子、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)四八

- 「赤十字博物館報に掲載されている歯科に関する史料」(抄) 坂本嘉久、武田和久、小池陽一郎、渡辺有、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六一～六二
- 「歯界新体制に関する意見―特に口腔外科について―」(抄) 佐久間優、石橋肇、渋谷敏、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六五～六六
- 「『聖濟總録』における歯病の分類について」(抄) 佐藤恭道、戸出一郎、別部智司、雨宮義弘『日本歯科医史学会々誌』一六(一)五一～五三
- 「明治期歯科病理学書の比較書誌学的研究」(抄) 塩津二郎、森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三一～三三
- 「ペンシルバニア大学歯科部と W. D. Miller の関係に(つづ)」(抄) 塩津二郎、森山徳長、小幡哲夫、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会々誌』一六(一)四〇～四一
- 「第五回日本医学会にみられる歯科分科と麻醉の内容」(抄) 渋谷敏、渋谷幸男、村木春長、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)五九～六〇
- 「第六回日本医学会にみられる歯科分科と麻醉の内容」(抄) 渋谷敏、大場重信、武藤優子、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六〇～六一
- 「歯科用照明の歴史」(抄) 下総高次『日本歯科医史学会々誌』一六(一)二一～二二
- 「中国における小楊枝について」周大成『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二七四～二七六
- 「木床義歯の起源と完成について」(抄) 新藤恵久、大野肅英『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三二
- 「中原市五郎の考案した咬合器について」(抄) 新藤恵久、大貫泰男『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三二
- 「古代人の歯の穿孔実験」(抄) 杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三四～三五
- 「嘉納治兵衛尚久齒三作者はだれか？」杉本茂春『大阪歯医師会誌』(四六四)二二～二二
- 「古語、まがたま、齒科からの発想」杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三五～三六
- 「山口秀雄著『歯科美学』について」鈴木雄士、新藤恵久『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一一
- 「邦訳『人の歯の博物学』(七)」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一五(三)二〇七～二〇九
- 「邦訳『人の歯の博物学』(八)」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二六七～二六九
- 「フォニシャル手稿の分析…手稿の訂正、加筆箇所注目して」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二七〇～二七三
- 「フォニシャル手稿の分析…手稿の訂正、加筆箇所注目して(その二)」(抄) 高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一六(一)三〇～三一
- 「邦訳『人の歯の博物学』(九)」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一六(一)八一～八三

「日本大学の学祖 山田頌義先生と医学(第二報)」滝口久『日本
歯科医史学会々誌』一五(三)二四〇～二四九

「明治大正期歯科矯正学書の比較書誌学的研究」(抄)竹島弘道、
森山徳長、栗山美子、西尾宏英、古屋嘉男、長谷川正康『日本
歯科医史学会々誌』一六(一)三三七

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その九)——第十編
榎本美彦著「新纂矯正歯科学」について」(抄)竹島弘道、
亀谷博昭、間宮亨、市之川武、森山徳長『日本歯科医史学会々
誌』一六(一)四九～五〇

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その一〇)——第十
一編矢崎正方著総義歯学について」(抄)竹島弘道、杉山邦
夫、栗山美子、市之川武、森山徳長『日本歯科医史学会々誌』
一六(一)五〇～五一

「歯科医学の発達を阻むもの」竹田正史『月刊保団連』(二九六)
三三

「歯科医伊沢先生述保歯剤三方説明書について」(抄)田辺明、
松本実、森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)五三～
五四

「固齡草(一名歯の養生譚)の書誌学」(抄)田辺明、森山徳長、
石川達也、長谷川正康、榊原悠紀太郎『日本歯科医史学会々
誌』一六(一)一八～一九

「お歯黒三題」津谷喜一郎『医家芸術』三三(一)四〇～四三
「諸病源候論」における歯齲候について」(抄)戸出一郎、別部
智司、佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会々誌』一六(一)

二七～二八

「甲乙経」に表れる歯病について」(抄)戸出一郎、別部智司、
佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会々誌』一六(一)二八
～二九

「六朝時代の医書に現れる歯痛の分類について」(抄)戸出一郎
『日本医史学雑誌』三五(二)一三六～一三七

「水野寛爾著『臨床歯科医典』および川上為次郎著『歯科診療医
典』について」(抄)西尾宏英、田辺明、栗山美子、森山徳長
『日本歯科医史学会々誌』一六(一)五四～五五

「旧制東京歯科大学の学制・教科書・教授陣などについて」(抄)
長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、金竹哲也『日本
歯科医史学会々誌』一六(一)三九～四〇

「おはぐるの歴史(その一)」長谷川正康『歯衛士』一三(七)
七〇～七一

「おはぐるの歴史(その二)」長谷川正康『歯衛士』一三(八)
六六～六七

「W・D・ミラー著『口腔の微生物』(独・英文版)の書誌学(そ
の二)」(抄)福本裕、森山徳長、太田功正、奥田克爾、高添一
郎『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六六～六七

「John Hunter の歯科医学的業績」(抄)本間邦則『日本医史学
雑誌』三五(二)一九〇～一九一

「Humorous Delineation of the Passion」における抜歯風俗に
ついて」(抄)松崎洋子、戸出一郎『日本歯科医史学会々誌』
一六(一)二六～二七

「社会歯科医学会について」馬渡亮司、清澤美智子、笹原広重、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六二～六三

「始めて米国で出版された歯科医学書(その一)——著者Richard

Corland Skinner の人物像について——森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一五(三)二二四～二二九

「始めて米国で出版された歯科医学書(その二)——R.C. Skinner 著 A Treatise on the Human Teeth の書誌学——森山徳長

『日本歯科医史学会々誌』一五(三)一三〇～一三三

「始めて米国で出版された歯科医学書(その三)——R.C. スキン

ナー著『ひとの歯牙に関する論説』の和訳(その一)——森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一五(三)二三四～二三九

「小泉栄次郎著『歯科材料論』の書誌学」森山徳長、田辺明、小幡哲夫『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二七七～二八一

「東京歯科医学院刊 広瀬武郎編 水野寛爾補『簡明歯科薬物学』の書誌学」森山徳長、西尾宏英、田辺明『日本歯科医史学会々誌』一五(四)二八二～二八六

「ペンシルバニア大学歯科部留学中の奥村鶴吉の人物像について(抄) 森山徳長、高添一郎、石川達也、長谷川正康『日本

歯科医史学会々誌』一六(一)三八～三九

「最初に英語で書かれた歯科医学書(その七)——Charles Allen: The Operator for the Teeth 付録 Physical Discourse G 和

訳(その一)——森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)六九～七二

「最初に英語で書かれた歯科医学書(その八)——Charles Allen:

The Operator for the Teeth 付録 Physical Discourse の和訳(その二)——森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六(一)七三～七六

「最初に英語で書かれた歯科医学書(その九)——英国ヨーク大聖堂に保存されているリリアン・リンゼー自筆の手紙および三版の復刻版について——森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一六

(一)七七～八〇

「日本海軍歯科医科士官の歴史(V) 原田朴哉軍医少監と日露戦争」山崎智『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一七

「西南の役における軍陣歯科と麻酔に関する内容およびコレラに関する記録」谷津三雄、滝口久『日本歯科医史学会々誌』一六

(一)八四～九二

「医歯薬史雑録(一〇二) わが国歯科医師の全国団結のはじめ 大日本歯科医師大会の特別講演について(その七)」谷津三雄

『歯界展望』七三(一)二二六～二二七

「医歯薬史雑録(一〇三) わが国歯科医師の全国団結のはじめ 大日本歯科医師大会の特別講演について(その八)」谷津三雄

『歯界展望』七三(二)四六四～四六五

「医歯薬史雑録(一〇四) わが国歯科医師の全国団結のはじめ 大日本歯科医師大会の特別講演について(その九)」谷津三雄

『歯界展望』七三(三)七二〇・七二一

「医歯薬史雑録(一〇五) わが国歯科医師の全国団結のはじめ 大日本歯科医師大会の特別講演について(その一〇)」谷津三雄

「医歯薬史雑録(二〇六) わが国歯科医師会の全国団結のはじめ
大日本歯科医師大会の特別講演について(その一)」谷津三
雄『歯界展望』七三(五) 一一二一～一一三三

「医歯薬史雑録(二〇七) わが国歯科医師の全国団結のはじめ
大日本歯科医師大会の特別講演について(その二)」谷津三
雄『歯界展望』七三(七) 一六二四～一六二五

「医歯薬史雑録(二〇八) わが国歯科医師の全国団結のはじめ
大日本歯科医師大会の特別講演について(その三)」谷津三
雄『歯界展望』七四(一) 二一八～二一九

「医歯薬史雑録(二〇九) 『歯科教育審議会報告書(其一)』につ
いて(その一)」谷津三雄『歯界展望』七四(二) 四六八～
四六九

「医歯薬史雑録(一一〇) 『歯科教育審議会報告書(其二)』につ
いて(その二)」谷津三雄『歯界展望』七四(四) 九四八～
九四九

「Humphry Davy 著 "Researches, Chemical and Philosophical;
chiefly concerning Nitrous Oxide" を手にして」(抄) 山城三
喜子、高橋誠治、住友雅人、古屋英毅『日本歯科医史学会々
誌』一六(一) 一四

「軍陣歯科学(第五版) —西南の役にみられる口腔外科手術と麻
酔—」(抄) 吉井秀鏑、渋谷敏、石橋肇、谷津三雄『日本歯科
医史学会々誌』一六(一) 四六～四七

「ペライト氏撰書 小林義直記述 歯科提要初版について」(抄)
吉村宅弘、米長悦也、松本好正、谷津三雄、今田喬士『日本歯

科医史学会々誌』一六(一) 一六～一七

22 史跡・記念碑

「開業医に必要な医史学の知識 先人の跡を訪ねて」大滝紀雄
『大和臨医談講抄』(一八) 四三～四四

「サン・ミケレ島に緒方惟直の墓をたずねて」緒方正美『適
塾』(一一二) 一〇三～一一一

「幕府の医学館跡を訪ねて」春日三佐夫 Mod Media 三〇五
(一〇) 五八二～五八四

「エワード・ジェンナーの像(その三)」加藤四郎『けんざ』
一八(三) 一九～二二

「エドワード・ジェンナーの像(その四)」加藤四郎『けんざ』
一八(四) 二三～三四

「北陸医史」第十卷第一号誌発刊に寄せて—越前朝倉氏興亡史
と一乗谷朝倉氏遺跡見学— 加藤豊明『北陸医史』一〇(一)
一～一〇

「都下医家名墓散策(一一) 瀬丘長圭」小曾戸洋『漢方の臨牀』
三六(三) 七七八～七八〇

「都下医家名墓散策(一二) 吉田意安」小曾戸洋『漢方の臨牀』
三六(四) 一〇二四～一〇二六

「都下医家名墓散策(一三) 吉田宗活」小曾戸洋『漢方の臨牀』
三六(六) 一一五九～一二六二

「都下医家名墓散策(一四) 数原宗達一族」小曾戸洋『漢方の臨
牀』三六(七) 一四三四～一四三六

- 「都下医家名墓散策(一五) 岡甫庵(寿元)」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(八)一五三九～一五四一
 「都下医家名墓散策(一六) 二宮桃亭」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(九)一六五四～一六五六
 「都下医家名墓散策(一七) 多賀谷安貞」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(一一)一八六四～一八六五
 「都下医家名墓散策(一八) 辻元冬嶺」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(一二)一九六七～一九七〇
 「広島医師会館の庭にある吉益東洞の記念碑」西丸和義『広島医学』四二(八)一二七二～一二七三
 「日本におけるオランダ人墓」宮永孝『社会労働研究』三五(二)八九～一八七
 『史跡訪ね歩き』について「米田該典『適塾』(二二) 八六～九二

23 疾病史

- 「倉公淳于意(その二) 症例の二」(抄) 家本誠一『日本医史学雑誌』三五(二)一七九～一八一
 「昭和によみがえった『江戸の病』の謎 現代版『江戸わづら』考『栄養のバランス』再考(六)」住田実『健教室』四〇(五)二八～四一
 「糖尿病の歴史から(一) 膵臓に魅せられた人びと」二宮陸雄 BIO medica 四(五)五二〇～五二四
 「糖尿病の歴史から(二) 代謝病としての認識」二宮陸雄 BIO

medica 四(六)六二九～六三二

- 「黒死病はベストだったのか」ヨーロッパ・ベスト史研究序説」見市雅俊『史学科』第三四号(中央大学文学部)
 「コレラ研究はここまで進んだ」三輪谷俊夫『適塾』(二二)三六～四三
 「明治期における脚気の歴史」をめぐる話題」山下政三『日本医史学雑誌』三五(三)二九二～三〇〇
 「日本らしい史(三八)～(四八)」山本俊一『多磨』一月八～二二、二月～八月各二～六、九月六～一〇、一一～二月各二～六
 24 耳鼻咽喉科史
 「A. Polizer と『耳科学史』貝塚悦 JOHNS 五(一)二四三～二四五

25 種痘史

- 「桑田立齋と蝦夷種痘図(その一)」加藤四郎『けんさ』一九(三)／四)二九～三二
 「わが国で最初に種痘をした中川五郎治の牛痘苗入手についての一考察」木村一郎『治療学免疫薬理』七(二)二〇三
 「江戸後期芸州山県郡の牛痘接種の研究」(抄) 末田尚『日本医史学雑誌』三五(二)一七一～一七三

26 獣医学史

- 「G・ラモン先生の生い立ちとその業績」海老沢功『日本獣医史

- 学雑誌』(二五) 三二
- 「獣医針灸学の発展と現況—獣医針灸療学会国際会議(中国、北京市)に出席して—」亀谷勉『日本獣医史学雑誌』(二四) 二六—三六
- 「十九世紀の馬治療記録—旧家所蔵日記から—」五味浩司、長尾壯七『日本獣医史学雑誌』(二四) 三—一
- 「『仮名安願集』を読んで」柏頼文『日本獣医史学雑誌』(二四) 五〇
- 「腺疫雑纂」岸浩『日本獣医史学雑誌』(二四) 四〇—四四
- 「特別講演要旨 市川厚一先生生誕百年—兎耳人工発癌に憶う—」久葉昇『日本獣医史学雑誌』(二四) 四五—四七
- 「鎌形蹄刀について」黒川和雄『日本獣医史学雑誌』(二四) 五一—五二
- 「日本の装蹄教育の変遷について—特に獣医学領域における位置づけ—」黒川和雄、多川政弘『日本獣医史学雑誌』(二五) 一九—二二
- 「ロンカリー先生への答え—吐^{トシユク}緩鶏^{クニ}日本舶来記—」坂本勇『日本獣医史学雑誌』(二四) 三七—三九
- 「晁鐘成著述「犬狗養畜傳」」白水完児『日本獣医史学雑誌』(二五) 四五—五四
- 「豚コレラ防疫の歴史的考察(その一)」諏訪綱雄『日本獣医史学雑誌』(二五) 二二—二八
- 「『下総御料牧場ができるまで』(一〇)—アップ・ジョーンズを中心とするカリフォルニア(開拓前後)の畜産業(その三)—」
- 谷垣康弘『日本獣医史学雑誌』(二四) 五三—五四
- 「『下総御料牧場ができるまで』(一一)—アップ・ジョーンズを中心とするカリフォルニア(開拓前後)の畜産業(その四)—」
- 谷垣康弘『日本獣医史学雑誌』(二四) 五五—五六
- 「『下総御料牧場ができるまで』(一二)(抄)—アップ・ジョーンズを中心とするカリフォルニア(開拓前後)の畜産業(その五)—」
- 谷垣康弘『日本獣医史学雑誌』(二五) 三四—三五
- 「『下総御料牧場ができるまで』(一三)—アップ・ジョーンズを中心とするユタ地方の畜産事情—」(抄) 谷垣康弘『日本獣医史学雑誌』(二五) 三六—三七
- 「『農学校』の創立と開校式」中井薫『日本獣医史学雑誌』(二五) 一四—一八
- 「史料紹介 鮎^{ササト}答(吾) 三篇」中井薫『日本獣医史学雑誌』(二四) 五七—五九
- 「『隼人の狗吠』について」中井薫『日本獣医史学雑誌』(二五) 三八—四四
- 「『馬経大全』について」濱學『日本獣医史学雑誌』(二四) 一一—二五
- 「唐人馬医劉經先のこと—近世獣医史の中から—」濱學『日本獣医史学雑誌』(二五) 三—一三
- 「『元亨療馬集』発行三八〇周年記念学術討論会に参加して」濱學『日本獣医史学雑誌』(二五) 三二—三三
- 「研究発表会講演要旨 日本鼻捻文化史」(抄) 間庭秀信『日本獣医史学雑誌』(二四) 四八—四九

「くまざさ牛疫牛にされそうになった中毒牛」矢崎信夫『日本

獣医史学雑誌』(二四) 六〇～六三

「家畜檢疫所の変遷(新山下町家畜檢疫所)」矢崎信夫『日本獣
医史学雑誌』(二五) 二九～三〇

27 書 簡

「林雲溪の書翰三通」岩治男『福井県医師会だより』(三二九)
一八～一九

28 書 誌 学

「『傷寒論文字攷統補』について」(抄) 荒木ひろし『日本医史学
雑誌』三五(二) 一八一～一八三

「池田文書の研究(一)」池田文書研究会『日本医史学雑誌』
三五(三) 三〇八～三一五

「池田文書の研究(二)」池田文書研究会『日本医史学雑誌』
三五(四) 四三九～四四三

「ハ史料紹介」伊藤圭介著『シーボルトへ所贈腊葉目録』(手稿
本)下「石山禎一『洋学史研究』(六) 四八～七五

「ケルスス『医学論』(翻訳)(一)～(三)」石渡隆司、渡辺義
嗣『医事学研究』第一号一～二八、第二号二七三～二九一、第
三号二七一～三四二

「ケルスス『医学論』(翻訳)(四)」石渡隆司、渡辺義嗣『医事
学研究』(四) 一八九～二八〇

「村尾留器の『三省録』について」(会) 岩崎鐵志『日本医史学

雑誌』三五(二) 九一～九二

「越前版『俗解八十一難経』の異版について」岩治男『北陸医
史』一〇(一) 六六～六七

「榕庵の『華音集要』と表記の実態」大友信一『洋学資料による
日本文化史の研究』(Ⅱ) 二七～四四

「呉秀三先生遺稿について」ことに「杏壇訪古のこと」(抄)
岡田靖雄『日本医史学雑誌』三五(二) 一四五～一四七

「シーボルト『日本』の翻訳版「Prospectus」による考察を中心
に」梶輝行『洋学史研究』(六) 二一～四七

「史料紹介 国立公文書館所蔵『曲直瀬義安院由緒書』など」香
取俊光『漢方の臨牀』三六(一〇) 一七五八～一七六四

「呂氏春秋における君臣論(その二)——人臣の識別法を中心とし
て——(上)」岸本良彦『明治薬科大学研究紀要』(人文科学・社
会科学) (一九) 一～一七

「労働科学研究所所在の稀観資料」Yarrow 時代の学位請求論
文——小沼十寸穂『労働科学』六五(八) 四四六～四五五

「北越従軍銃創図録」について」近藤達平『ミクロスコピア』
六(一) 五二～五六

「肥後藩主 細川重賢公による 腊葉帖 供覧」(抄) 匂坂浩『日
本医史学雑誌』三五(二) 一四八～一五〇

「資料紹介『医事新報』島岡真『名古屋大学史紀要』(一)
一五三～一七五

「野中家資料について(一)」杉立義一『漢方の臨牀』三六(六)

一二五五～一二五八

- 「野中家資料について(二)」杉立義一『漢方の臨牀』三六(七)一四三七～一四四二
- 「野中家資料について(三)」杉立義一『漢方の臨牀』三六(九)一六六六～一六七一
- 「野中家資料について(四)」杉立義一『漢方の臨牀』三六(一〇)一七六六～一七六九
- 「野中家資料について(五)」浅田宗伯筆『医心方』抄本一杉立義一『漢方の臨牀』三六(一一)一八六六～一八七〇
- 「『医心方』半井家本の一考察」杉立義一 京都大学人文科学研究所研究報告『中国古代科学史論』六四七～六九九
- 「『医心方』の伝写について(Ⅸ)——仁和寺本——」(抄) 杉立義一『日本医史学雑誌』三五(二)二〇三～二〇四
- 「再発見された二冊目の『官版・独逸単語篇』」高橋輝和『洋学資料による日本文化史の研究』(Ⅱ)四五～一〇一
- 「『米利堅平常用方』について」(会) 高安伸子、酒井シヅ『日本医史学雑誌』三五(一)八九～九〇
- 「大阪医学図書館」と『図書目録』寺畑喜朔『醫譚』(五七)一二～一九
- 「蘭方口伝(失物兒杜驗方録)について」(抄) 中村昭『日本医史学雑誌』三五(二)一五〇～一五二
- 「緒方洪庵『扶氏経験遺訓』翻訳過程の検討」中村昭『日本医史学雑誌』三五(三)二二九～二六〇
- 「三井家の筆写本『養生式』享保一一年」(会) 野村茂『産業医学雑誌』三一(三)一八七
- 「渋江抽斎自筆『津軽一粒金丹』秘伝書について」(抄) 松木明

知『日本医史学雑誌』三五(二)一六三～一六四

「北陸人類学会誌について」松田健史、正橋剛二『北陸医史』

一〇(一)五五～五六

「『小品方』卷十一・本草篇の旧態とその価値」(抄) 真柳誠『日本医史学雑誌』三五(二)一三四～一三五

「『金匱要略』の文献学的研究(第二報)——明・無名氏刊『新編金匱要略方論』とその版本系統——真柳誠、小曾戸洋『日本医史学雑誌』三五(四)四〇八～四二九

「緒方洪庵の『扶氏医戒之略』の解説」森重孝『鹿児島市医師会病院誌』表紙裏

「古義堂文庫蔵 伊藤東涯『初見帳』」山根陸宏、岸本真実『ピブリア』(九三)一〇一～一二六

「中国国家図書館所蔵の宋刊医籍孤本八種」(抄) 李志剛『日本医史学雑誌』三五(二)一八五～一八七

29 小児科史

「十九世紀ヨーロッパの医育の変遷」(抄) 石田純郎、H・ポイケルス『日本医史学雑誌』三五(二)一八七～一八九

「明治初期の翻訳育児書」小嶋秀夫『日本医史学雑誌』三五(二)二六～四四

「座談会 小児科学の過去・現在・未来——東京大学小児科学教室開設一〇〇年を記念して——」(司) 白木和夫、川戸英彦(出)

小林登、酒井シヅ、鴨下重彦、日比逸郎『小児科学』二二(一一)一六七七～一六八八

「田代三喜の『三婦廻翁医書』小児諸病門について」(抄) 広田

暉子『日本医史学雑誌』三五(一)一三二～一三三

「子どもと医史学(八)カドガンの『青児論』」深瀬泰旦『教育

医事新聞』(五三)一三三

「子どもと医史学(九)スウォドリンド」深瀬泰旦『教育医事新

聞』(五四)一三二

「子どもと医史学(一〇)乳母の条件」深瀬泰旦『教育医事新

聞』(五六)一三一

「子どもと医史学(一一)乳母の条件(日本編)」深瀬泰旦『教

育医事新聞』(五七)一七

「子どもと医史学(一二)人工栄養法」深瀬泰旦『教育医事新

聞』(五九)一三三

「子どもと医史学(一三)わが国の人工栄養法」深瀬泰旦『教育

医事新聞』(六〇)一三三

「子どもと医史学(一四)初乳」深瀬泰旦『教育医事新聞』

(六一)一四

「子どもと医史学(一五)離乳」深瀬泰旦『教育医事新聞』

(六二)一七

「子どもと医史学(一六)歯牙の萌出」深瀬泰旦『教育医事新

聞』(六三)一三三

「子どもと医史学(一七)排尿(上)」深瀬泰旦『教育医事新聞』

(六四)一三三

「中国医療史における小児推拿について」(抄) 山本徳子『日本

医史学雑誌』三五(二)一八四

32 整形外科史

「整形外科を育てた人達(第六七回) Lorenz Böhler(一八八五～

一九七三)」天児民和『臨整外』二四(一)八四～八七

「整形外科を育てた人達(第六八回) Dominique-Jean Larrey

(一七六六～一八四二)」天児民和『臨整外』二四(一)一八二～

一八五

「整形外科を育てた人達(第六九回) Gerhard Kinscher(一九

〇二～一九七二)」天児民和『臨整外』二四(三)二七〇～

二七三

「整形外科を育てた人達(第七〇回) Georg Hohmann

(一八八〇～一九七〇)」天児民和『臨整外』二四(五)六三三

～六三六

「整形外科を育てた人達(第七一回) Heinrich Hofmann(一八

五一～一九一七)」天児民和『臨整外』二四(六)七〇七～

七〇九

「整形外科を育てた人達(第七二回) Jean Martin Charcot

(一八二五～一八九三)」天児民和『臨整外』二四(七)八一五

～八一七

「整形外科を育てた人達(第七三回) Walter Mercet(一八九一

～一九七二)」天児民和『臨整外』二四(八)九五二～九五三

「整形外科を育てた人達(第七四回) Louis Bauer(一八一四～

一八九八)」天児民和『臨整外』二四(九)一〇五八～一〇

六〇

「整形外科を育てた人達(第七五回) Gustaf Jonas Wilhelm

Zander (一八三五～一九一七)「天児民和『臨整外』二四

(一〇) 一九二一～一九四

「整形外科を育てた人達(第七六回) 神中正一教授(一八九〇～

一九五三) 天児民和『臨整外』二四(一一) 一三二二～一三

一五

「整形外科を育てた人達(第七七回) Sir Reginald Watson-Jones

(一九〇二～一九七二) 天児民和『臨整外』二四(一二) 一四

三五～一四三七

「膝関節の傷害」魚住広信『医道の日本』四八(二) 九二～九九

「カリエスから予防整形外科まで」アフォリズムとともに」笠井

実人、山内裕雄『整災外』三二(一) 四三～五四

「出土した一八〇余年前の常用下義足について」(会) 松元四郎

『整外と災外』三七(四) 一八三〇

「関節鏡今昔 渡辺先生を囲んで」(会) 渡辺正毅、外九名『関

節鏡』一四(一) 二二五～二二六

「整骨新書の世界(一七)」梅沢正家『日整骨会報』(三三)

二七三～二七五

33 精神医学史

「G・M・ビヤード『神経衰弱』(第二版一八八〇年)」川喜田愛

郎『科学医学資料研究』(一七八) 一～二

「日本精神医学風土記(第三部)(第四回) 京都府」魚谷隆『臨

精医』一八(八) 一二八九～一二九六

「精神疾患患者への偏見をつくるもの(第二報)——新聞記事の分

析——岡田靖雄『社会精神医学』二(一) 三七～四七

「わが国の精神科医療史のスケッチ」岡田靖雄『季刊職リハネッ

トワーク』(四) 三五～三六

「淫事と精神病——精神病学説史の一断面——」岡田靖雄『日本医史

学雑誌』三五(一) 一～二五

「精神保健法批判」岡田靖雄『精神神経学雑誌』九(三)

一七〇～一七八

「赤門戦士挽歌——精神病学教室の人に——」岡田靖雄『津軽保

健精神神経科医報』一(二) 三～七

「G・M・ビヤード『神経衰弱』について」泰井俊三『科学医学

資料研究』(一八二) 九

「精神医療のあゆみの中で」吉岡真二『改訂版 精神医学と看護

——症例を通して』一～二九 日本看護協会出版会

「国政医論」(中)『断訟医学』より』ティーゲル講授 三瀧謙

三、谷口謙訳『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一五)

一～八

「精神看護法(完)」清水耕一『呉秀三先生記念精神科医療史

資料通信』(一五) 八～一六

「新撰看護法・目次(完)」清水耕一『呉秀三先生記念精神科医

療史資料通信』(一五) 一七～二四

「呉秀三在職十年祝賀記念アルバム 門弟写真 補遺(その二)」

『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一五) 二五

「優生断種法トハ何カ 民族優生保護法案、遺伝病子孫防止法」

『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一五) 二六～三六

- 「主張 二人だけの革命―戦争責任、わたしの場合―」吉岡眞二
 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一五) 三七～三九
 「緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』より(神経病の部分)その一」
 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一六) 一～一一
 「本邦第一之腎薬 藥聖壽徳齡―引札―」吳秀三先生記念精神科
 医療史資料通信』(一六) 一二
 「内閣統計局精神病者調査票記入参考(一九一〇年)」吳秀三先
 生記念精神科医療史資料通信』(一六) 一三～二二
 「吳秀三在職十年祝賀記念アルバム(門弟写真) 補遺(その二)」
 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一六) 二二
 「保健衛生調査会第一回報告(その一)」吳秀三先生記念精神科
 医療史資料通信』(一六) 二三～三〇
 「日本民族優生展覧会目録」吳秀三先生記念精神科医療史資料
 通信』(一六) 三一～三四
 「主張―正義について―」吉岡眞二『吳秀三先生記念精神科医療
 史資料通信』(一六) 三五～三六
 「緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』より(神経病の部分)その二」
 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一七) 一～一一
 「錦織剛清『神も佛もなき闇の世の中』より表紙・蚯蚓庵主人に
 よる序・奥附」『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一七)
 一二～一四
 「相馬事件と当時の出版物」岡田靖雄『吳秀三先生記念精神科医
 療史資料通信』(一七) 一五～一七
 「相馬の夜嵐統篇探偵の夢」挿し絵『吳秀三先生記念精神科医

療史資料通信』(一七) はさみこみ色刷り

「吳秀三在職十年祝賀アルバム(門弟写真) 補遺(その二)」吳
 秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一七) 一九

「保健衛生調査会第一回報告」より(その二)」吳秀三先生記
 念精神科医療史資料通信』(一七) 一九～二八

「昭和十五年末精神病院名簿」吳秀三先生記念精神科医療史資
 料通信』(一七) 二九～三四

「主張―精神保健法施行でなにもがもつとも大切か―」吉岡眞二
 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一七) 三五～三六

34 生物学史

「生物性移植体の開発とその歴史的考察」(抄) 片桐正隆『日本
 齒科医史学会々誌』六(一) 四七～四八

35 西洋医学史

「ギリシア医学の道(一) ヒポクラテス以前」加藤静雄『医薬の
 門』二九(一) 四五～四八

「ギリシア医学の道 ヒポクラテス集成」加藤静雄『医薬の門』
 二九(二) 九〇～九三

「ギリシア医学の道 ヒポクラテス集成」加藤静雄『医薬の門』
 二九(三) 一五一～一五四

「ギリシア文明の誕生 ギリシア医学の道―ヒポクラテス以後、
 アリストテレス、テオプラストス―」加藤静雄『医薬の門』

二九(四) 二二七～二二〇

「ギリシア文明の誕生 ギリシア医学の道」(五) アレクサンドレ
イア時代」加藤静雄『医薬の門』二九(五) 二八八～二九一
「南フランス医学の都 モンペリエのシンボル」大村敏郎『臨外』
四四(七) 九一四

36 生化学史

「骨代謝研究」を支えてきた人々(第四回) Gregory R Mundy
(一九四二)「米田俊之『日骨代謝会誌』七(一) 五八～六七
「骨代謝研究」を支えてきた人々(第五回) J.T.P. oles Jr. (一
九三二)「五十嵐徹也『日骨代謝会誌』七(二) 七二～七五

37 生理学史

「サントリオ・サントリオの計量代謝学」二宮陸雄『日経メデイ
カル』一八(三) 二二二～二三三

38 地方史

「広島における藩医たちとそれらの業績について(その一)」江
川義雄『広島医学』四二(九) 一四四七～一四五二
「広島地方の藩医たちとその業績」(抄) 江川義雄『日本医史学
雑誌』三五(二) 一七〇～一七一

「地域学習と生活文化」大友秀明、佐々田亨三『秋田大学教育学
部教育研究所研究報』(二六) 八五～九九

「肥後の医学史」(抄) 鹿子木敏範『日本医史学雑誌』三五(二)
一一七～一二〇

「中津の医学史―医家『村上家』について―」川島真人『田舎日
日ジャーナル』(七) 三二～三六

「中津の医学史―日本整形外科の祖『田代基徳』―」川島真人
『田舎日ジャーナル』(八) 三四～三六

「中津藩の蘭学者大江春塘川島真人『日本医事新報』(三三八)二
六九

「佐賀藩の医学」酒井シヅ『近代西洋文明との出会い―黎明期の
西南雄藩』思文閣出版 一四七～一七〇

「佐賀藩の輸入医学書」(抄) 酒井シヅ『日本医史学雑誌』三五
(二) 一九八～二〇〇

「随筆 古文書が語る郷土史」坂井健夫『福井県医師会だより』
(三三九)

「日本医療団(第三報)―戦後の活動と九州地方の医療団施設」
(抄) 佐久間温巳『日本医史学雑誌』三五(二) 二一六～
二二八

「明治初期遠州における間歇熱」土屋重朗『日本医史学雑誌』
三五(一) 四五～五八

「医界風土記 静岡県 清見寺膏薬」土屋重朗『日医ニュース』
(六五八) 四

「半世紀前を中心にした大阪の医界」長門谷洋治『大阪府医ニ
ース』一七〇七

「日本医学の黎明と岡山」(念) 中山沃『消集検』(八二) 一〇一
～一〇三

「医師会風土記(九六)～(一〇〇) 阿淡産志の成立と発見(一一)

〔一五〕福島義一『徳島県医師会報』(二一四)~(二一八)
(二二四)三九~四一、(二二五)二五~二八、(二二六)四三
~四七、(二二七)三二~三四、(二二八)三三~三六

「自由民権運動にかかわった川崎の医師たち」(抄) 深瀬泰且
『日本医史学雑誌』三五(二)一五五~一五七

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その二五)」森重孝『鹿児島市
医報』二八(二)三二~三六

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その二六)」森重孝『鹿児島市
医報』二八(四)五六~五九

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その二七)」森重孝『鹿児島市
医報』二八(六)四五~四八

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その二八)」森重孝『鹿児島市
医報』二八(八)八一~八四

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その二九)」森重孝『鹿児島市
医報』二八(一〇)四一~四四

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三〇)」森重孝『鹿児島市
医報』二八(一一)六八~七〇

「対談 中津藩の蘭学と福沢諭吉」横松宗、川島真人『田舎日日
ジャーナル』(九)二~六

39 治療史

「一七世紀ヨーロッパの民間療法」飯塚信雄『図書』二月号一四
~一九

「パリの新医学部館のレリーフ『王の手』療法」大村敏郎『臨

外』四四(六)八三八

「経腸栄養の歴史(一)」木村信良『輸液栄養ジャーナル』一一(一)
四四~四五

「経腸栄養の歴史(二)」木村信良『輸液栄養ジャーナル』一一(二)
一八四~一八五

「経腸栄養の歴史(三)」木村信良『輸液栄養ジャーナル』一一(三)
三二一~三二三

「経腸栄養の歴史(四)」木村信良『輸液栄養ジャーナル』一一(四)
四二一~四二三

「経腸栄養の歴史(五)」経腸栄養の実施法』木村信良『輸液栄養
ジャーナル』一一(五)六二九~六三一

「ツベルクリン事始め」小山鷹二『薬史学雑誌』二四(二)一三
九~一四九

「Codman の Stopping Exercise 武富由雄『理学療法』六(二)
一〇〇~一一一

「輸血の歴史」遠山博『カレントセラピー』七(七)九八二~
九八六

「外治法(民間医術)について―その歴史と方法―」原幸夫『伊
那』(伊那史学会)三七(六)一四~二六

「一九〇四年リッチモンド医歯薬科大学歯学部保存実習で始めて
用いられたライト式マネキンについて」森山徳長『日本歯科医
史学会々誌』一五(三)二一九~二二三

40 伝 記

- 「医史跡紀行(一三) 山口 萩と青木周弼」西来武治 *Medical News* (三〇七) 一五～一八
- 「將軍・芦原金次郎伝」岡田靖雄『図書』(四八〇) 二四～二九
- 「東昇先生の想い出(上)」吉井善作『微生物』五(五) 五一～五二四
- 「東昇先生の想い出(下)」吉井善作『微生物』五(六) 六一～六二八
- 「生物学者人物誌 アリストテレス」島崎三郎『高校通信 東書生物』(二九五) 五
- 「カバドキアのアレタイオス」疾病の自然経過を生々しく記載した一八〇〇年前の臨床医「二宮陸雄『日経メディカル』一八(一〇) 一三三二～一三三三
- 「蘭山先生日記」に見る窓齋V」遠藤正治『窓齋研究会だより』(四七) 六～七
- 「窓齋と『古茂埜温泉記』」安江政一『窓齋研究会だより』(四四) 二～六
- 「池田多仲」(会) 深瀬泰旦『日本医史学雑誌』三五(一) 九〇～九一
- 「睡眠物質の発見者 石森国臣」久保田鏡『サイエンス』八月号 六〇～六九
- 「蘭馨堂門人 衣閑順庵」平野満『駿台史学』(七六) 三八～六七
- 「わが国理学博士第一号伊藤圭介先生の研究回想(上)」吉川芳秋『現代医』三七(一) 一五七～一六一
- 「サツカラの階段ピラミッドとイムホテブ」(会) 三浦豊彦『産業医』三一(三) 一八七～一八八
- 「明治戊辰戦争におけるウイリスの診療記録とその評価」日本人医師による越後口戦傷者記録を中心として」(抄) 蒲原宏『日本医史学雑誌』三五(二) 二〇九～二一一
- 「医学史ミニ博物館(四二) ウィンズローと医学部の講堂」大村敏郎『医学のあゆみ』一五一(四) 二三三
- 「蘭学を学んだ岡山の医師群像—海上随鷗の門人—」中山沃『洋学資料による日本文化史の研究』(Ⅱ) 一～二六
- 「海上随鷗の在坂期間再考」(抄) 中山沃『日本医史学雑誌』三五(二) 二〇〇～二〇二
- 「医史跡紀行(一四) 岐阜 江馬蘭齋と好蘭堂」西来武治 *Medical News* (三〇八) 一五～一八
- 「Wilhelm Heinrich Erb」鈴木尚、角家暁 *Clin Neurosci* 七(一〇) 一四一
- 「八名医列伝V忘れられた種痘医—大野松齋」蔵方宏昌『ばんぶう』(一〇〇) 二一八～二一九
- 「緒方洪庵生誕一八〇年前年祭」緒方正美『適塾』(二二) 一一〇
- 「洪庵とコレラ—虎狼痢治準—をめぐって—」宗田一『適塾』(二二) 七〇～七二
- 「恩師 緒方準一先生を偲んで」石川兵衛『適塾』(二二) 一一一～一一三
- 「歴史閑話 緒方富雄」深瀬泰旦 *MEDIC* 二四(二二) 表紙

「血清学者としての故緒方富雄先生(上)―『免疫』概念の歴史的な捉えにくさについて―」川喜田愛郎『科学医学資料研究』(一八二)一七七

「血清学者としての故緒方富雄先生(下)―『免疫』概念の歴史的な捉えにくさについて―」川喜田愛郎『科学医学資料研究』(一八三)五〇一―一〇二

「緒方富雄博士を偲ぶ」藤野恒三郎『適塾』(一一二)一四一―一四二

一四五

「医史跡紀行(二二)埼玉女医第一号・荻野吟子」西来武治

Medical News (三〇六)一五―一八

「奥山静叔のことども」長門谷洋治『適塾』(一一二)七三―七四

「医学・保健に関する一口メモ 解体新書付図の筆者・小田野直武」秋山房雄『保健の科学』三一(九)五九四

「軍医落合泰蔵(抄)」田中助一『日本医史学雑誌』三五(二)一三〇―一三二

「ルジェロ・オッディと括約筋発見百年に当たって」小野慶一

『科学医学資料研究』一七七六―一七七八

「Ruggiero Oddi の不思議な生涯」小野慶一『ミクروسコピア』六(一)一八―二二

「出島蘭館医カスバル・シャムベルゲルについて(抄)ヴォルフガング・ミヒェル『日本医史学雑誌』三五(二)一二三―一二五

「鍼灸師からみた華佗の医術」宇田明男『医道の日本』四八(五)六二―六六

「名医ガレノス」酒井シヅMamma (六)表紙(裏)

「William Richard Gowers」萬年甫 Clin Neurosci 7 (B)四五〇

四五〇

「『解屍編』完成までの河口信任が学んだ環境」川島恂二『古河市医師会報』(二二)別刷(一―五)

「シーボルトを支えた日本人 川原慶賀」兼重護『無限大』(八三)二〇―二三

「明治初期の薬業界に貢献した岸田吟香」天野宏、斎藤明美、杉原正泰『薬史学雑誌』二四(一)四七―五四

「医学史ミニ博物館(三六)一〇〇年目を迎えた北里柴三郎の業績」大村敏郎『医学のあゆみ』一四九(四)二三八

「八名医列伝Ⅴ破傷風菌の純粹培養法を発見―北里柴三郎」蔵方宏昌『ばんぶう』(九九)一四二―一四三

「歴史閑話 久慈直太郎」酒井シヅ MEDIC 二四(八)表紙

「來住彌次郎小伝―あるセツラーの生涯―」岡田靖雄『医学史研究』(六三)一―九

「蔵内数太先生と興讓館」森東吾『適塾』(一一二)一一六―一一九

「歴史閑話 久留勝」酒井シヅ MEDIC 二四(四)表紙

「医学史ミニ博物館(四一)クルムス生誕三〇〇年」大村敏郎

『医学のあゆみ』一五〇(一三)八五―

「黒川良安先生の遺墨について」寺畑喜朔『北陸医史』一〇(一)六三―六五

「病理解剖の先覚者・小石元俊のこと」長与健夫『日本医事新報』(三三四)一六二―六三

「病理解剖の先覚者・小石元俊のこと」長与健夫『日本医事新報』(三三四)一六二―六三

- 「八名医列伝」古医方の大成者—後藤良山—藏方宏昌『ばんぶう』(九一)一六〇—一六一
- 「古林見貞と今大路家」宗田一『醫譚』(五七)一—五
- 「八名医列伝」宮中で治療した西洋医学専門医—小森桃塙—藏方宏昌『ばんぶう』(九七)一六二—一六三
- 「カール・コリ」丸山工作『科学』五九(三)一八七—一九一
- 「佐伯理一郎とその『日誌抜萃』」(抄)長門谷洋治『日本医史学雑誌』三五(二)一三八—一四〇
- 「佐伯理一郎と京都—『日誌抜萃』を中心に—」(一)長門谷洋治『啓迪』(七)九—一三
- 「歴史閑話 斎藤真」酒井シヅ MEDIC II(四)表紙
- 「佐藤泰然と順天堂—日本近代医学のあけぼの—」野村敏雄『大塚薬報』(四三〇)三—二二
- 「エドワード・ジェンナーをめぐる謎」(三)加藤四郎『けんざ』一八(三)二八—三七
- 「エドワード・ジェンナーをめぐる謎」(四)加藤四郎『けんざ』一八(四)三五—四五
- 「柴田信教授の著書について」(抄)山口秀紀、山崎宗与、金子賢司、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一六(一)一一—二二
- 「シーボルト雑話」フリッツ・フォス『シーボルト研究』(法政大学フォン・シーボルト研究会会誌) (五)一—二一
- 「シーボルト雑記帖」(二五)オランダ国王から勲章大冊『ニッポン』の刊行はじまる「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(五)

- 二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(二六)出版の費用と資料集めの旅「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(六)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(二七)自宅に開設した民族学博物館と園芸奨励協会の設立「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(七)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(二八)輸入のニッポン植物とニッポンについての進言「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(八)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(二九)オランダ国王の書簡の起草、ヘレネ嬢と結婚「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(九)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(三〇)ライン河畔の生活、広大な計画、古文書の発見「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(一〇)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(三一)日本近海の海図と日本開国のすすめ(一)「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(一一)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(三二)日本開国のすすめ(二)シーボルト、ボンに移転「吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(一二)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(三三)第二次ニッポン旅行(一)「吉岡達夫『東洋薬事報』三一(一)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(三四)第二次ニッポン旅行(二)「吉岡達夫『東洋薬事報』三一(二)二四—二六
- 「シーボルト雑記帖」(三五)江戸へ行く「吉岡達夫『東洋薬事報』三一(三)一八—二〇
- 「幕末の長崎におけるシュミットの医療活動」園田健二『日本医史学雑誌』三五(三)二六一—二七六

- 「鍼医・徐福を追って(一)」宇田明男『医道の日本』四八
 (一一)九一～九八
- 「医学史からみた鍼医・徐福」宇田明男『医道の日本』四八
 (一〇)八二～八九
- 「Ignaz P. Semmelweis」渡辺明『病体生理』(五六)二三
- 「先達医家の肖像 Erasmus Darwin (一七三二～一八〇二)」酒
 井シヅ『Med Digest』三八(三)表Ⅲ
- 「高木兼寛と宗教」とくにその遍歴について」松田誠『東京慈
 恵会医科大学雑誌』一〇四(二)四一～四一八
- 「高木兼寛の愛国思想」松田誠『東京慈恵会医科大学雑誌』
 一〇四(三)六四一～六四八
- 「初代松本医学専門学校校長 竹内松次郎先生創業の苦難とその功
 績を偲んで(抄)」穴田秀男『日本医史学雑誌』三五(二)
 一六一～一六二
- 「医史跡紀行(一五) 新潟 新潟西洋医学の草分け・竹山屯」西
 来武治『Medical News』(三〇九)一五～一八
- 「八名医列伝▽解剖を主宰した独学の漢方医―橘南谿」蔵方宏昌
 『ばんぶう』(九二)一七六～一七七
- 「医史跡紀行(一〇) 岩手 建部清庵と救荒書」西来武治『Medical
 News』(三〇四)一六～一八
- 「Charles Gilbert Chaddock (一八六一～一九三六)」高橋昭 Clin
 Neurosci 卅(三) 三三〇
- 「衛生学者坪井次郎」(抄) 泉彪之助『日本医史学雑誌』三五
 (一) 二一四～二一六
- 「医師坪井芳治の家系と経歴」泉彪之助『日本医史学雑誌』三五
 (二) 五九～七一
- 「ディクテンとその周辺」石田純郎、H・ホイケルス『啓迪』
 (七) 五～八
- 「外科の臨床教育家デソールの像」大村敏郎『臨外』四四(二)
 二二二
- 「医学史ミニ博物館(四四) デソールの包帯法」大村敏郎『医学の
 あゆみ』一五一(一・一・二) 六九
- 「史実 長井兵助」(抄) 遠藤吉雄、高槻正男、佐藤忠四郎『日本
 歯科医史学会々誌』一六(一) 二三～二四
- 「中原市五郎先生とFDI」(抄) 谷津三雄、中村一、池田直、門
 平光信『日本歯科医史学会々誌』一六(一) 五六～五七
- 「八名医列伝▽衛生制度の基礎を確立した―長与専斎」蔵方宏昌
 『ばんぶう』(一〇一)一五〇～一五一
- 「八名医列伝▽救民濟世に尽くした岡山の名医―難波抱節」蔵方
 宏昌『ばんぶう』(九五)一六一～一六三
- 「オランダ人の視点からみた野口英世」石田純郎『ながはま』
 (一五) 二八～三〇
- 「スピロヘータ分類学上の野口英世の業績の医史学的分析」(抄)
 橋本裕、森山徳長、太田功正、奥田克爾、高添一郎『日本歯科
 医史学会々誌』一六(一) 四一～四二
- 「James Parkinson そのプロフィール」高橋昭『内科』六三(五)
 八〇四～八〇七
- 「James Parkinson (一七五五～一八二四)」楢林博太郎 Clin

Neurosci. 7 (六) 六八二

「第十回北陸医史学同好会例会特別講演 医師としての橋本左内」
白崎昭一郎『北陸医史』一〇(一)一一～二七

「考古学者 馬場脩 D・D・S」(抄) 蓮見壽伯『日本齒科医史
学会々誌』一六(一)三六

「電子顕微鏡時代以前の野口英世の黄熱についての研究(一九
一八～一九二八)」Sachi Sri Kanha (米国) Kitasato Arch.
Exp. Med. 41(1) 一～九

「雑誌『学校衛生』(明治三六年五月～同三八年九月)と原田長
松」島谷充子『体育紀』(二三)一九～三八

「生物学人物誌『ハリソン』中井準之助『高校通信 東書 生物』
(二九四)五

「アンブロアズ・パレの処女出版とその背景」(抄) 大村敏郎

『日本医史学雑誌』三五(一)一九四～一九六

「歴史閑話 樋口一成」深瀬泰旦 MEDIC 二四(九)表紙

「外科と内科と基礎の掛け橋(一五)グザヴィエ・ビシャーの
像」大村敏郎『臨外』四四(三)四〇三

「外科医の草分けジャン・ピタール」大村敏郎『臨外』四四(四)
五二三

「九州医家列伝(八)緒方洪庵に痘苗を中継した日野鼎設」中西
啓『CRCジャーナル』(二二四)一一～二三

「生物学人物誌(五一)ヒル」佐藤和彦『高校通信 東書 生物』
(二九)五

「近代ドイツ外科学の推進者ビルロート」鈴木侃『日経メディカ

ル』一八(九)二三二～二三三

「八名医列伝Ⅴ理学の道を拓いた「西洋純粹医」—広瀬元恭」藏
方宏昌『ぼんぶう』(九六)一四〇～一四一

「Jan Evangelista Purkyně」萬年甫 Clin Neurosci. 7 (11)
一三六八～一三六九

「歴史閑話 福田保」深瀬泰旦 MEDIC 二四(一〇)表紙

「和蘭人ヘイデンを裁判所鑑定医師に採用請願一件」小関恒雄
『犯罪誌』五五(四)一七一～一七五

「モンペリエ出身の国王付外科医 ラ・ペイロニーの坐像」大村
敏郎『臨外』四四(八)一〇九九

「医師・ヘボンの素顔」高安伸子『白金通信』(二四九)一

「ベルツと日本」酒井シヅ『日本近代思想大系一四 科学と技術』
付録「月報八」二～一

「史伝「星」言語録(その二)」三澤美和『薬史学雑誌』二四
(一)一一五～一一九

「細川桃庵の事跡」(抄) 関信之、小曾戸洋『日本医史学雑誌』
三五(二)一四三～一四五

「官刻『訂正東医宝鑑』の訂訂者 初代細川桃庵」宗田一『和漢
薬』三九(九)七～八

「歴史閑話 細谷省吾」酒井シヅ MEDIC 二四(二)表紙

「歴史閑話 馬杉復三」酒井シヅ MEDIC 二四(五)表紙

「八名医列伝Ⅴ西洋医学教育の推進者—松本良順」藏方宏昌『ぼ
んぶう』(一〇二)一七〇～一七一

「曲直瀬道三の学友・西友鷗について」(抄) 木下勤『日本医史

学雑誌』三五(二)二一九～二二〇

「ある漢方医の記録―滋賀県坂田郡市町村三浦氏の場合―」正橋剛二、松田健史『北陸医史』一〇(一)三五～五〇

「W.D. Miller がベルリン大学に提出した学位請求論文一八八七について」(抄) 森山徳長、福本裕、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会誌』一六(一)六七～六八

「歴史閑話 光田健輔」酒井シヅ MEDIC 二四(三)表紙

「八名医列伝Ⅴ西洋医学の普及に努めた外科医―三宅良斎」蔵方宏昌『ぼんぼう』(九四)一六四～一六五

「医学史探訪 脾摘糖尿病を発見したミンコフスキー」二宮陸雄『日経メディカル』一八(八)二一六～二一七

「八名医列伝Ⅴ肥後(熊本)の医学教育に尽力―村井琴山」蔵方宏昌『ぼんぼう』(九三)一六四～一六五

「村井琴山先生の事蹟」(抄) 難波恒雄、浜田善利『日本医史学雑誌』三五(二)一六七

「Prosper Menière (一七九九～一八六二)」坂田英治 Clin Neurosci 七(一)一〇八

「Egas Moniz」佐野圭司 Clin Neurosci 七(一)二二四

「歴史閑話 本橋均」酒井シヅ MEDIC 二四(六)表紙

「医学史ミニ博物館(三三) 医者の仇? モリエール」大村敏郎

『医学のあゆみ』一四八(四)二六四

「歴史閑話 森田正馬」深瀬泰旦 MEDIC 二四(一一)表紙

「歴史閑話 矢追秀武」深瀬泰旦 MEDIC 二四(一)表紙

「東博銅人形の製作者および年代について―幕府医官山崎氏的事

跡」(抄) 小曾戸洋『日本医史学雑誌』三五(二)一四〇～一四二

「学祖山田頭義先生と医学(講演要旨)」滝口久『桜門春秋』(四〇)六三～七五

「八名医列伝Ⅴ本草学の実践と教育に尽くした儒医―山本七羊」蔵方宏昌『ぼんぼう』(九八)一六二～一六三

「医学史ミニ博物館(四三) 山脇東洋の解剖書」大村敏郎『医学のあゆみ』一五一(八)四五～四

「医史跡紀行(一一) 広島 吉益東洞の『万病一毒』」西来武治 Medical News (三〇五)一五～一八

「吉益蘇齋について」(抄) 岡利幸『日本医史学雑誌』三五(二)一六〇

「医界風土記(四〇八) 宣教医ラニングと聖バルナバ病院」長門谷洋治『日医ニュース』(六六九)(一九八九、七、二〇)

「リヨンのオテル・ディユ病院にあるフランソワ・ラブレールのリーフ」大村敏郎『臨外』四四(九)一三三三

「ラブレールの研究書」大村敏郎『臨外』四四(一一)一六七五

「軍陣外科の巨星ラレールの像」大村敏郎『臨外』四四(一)六〇

「血液代用液の創案者リンガーについて」(抄) 本間邦則『日本歯科医史学会誌』一六(一)四五～四六

「生物学人物誌(五二) ルーベン」西村光雄『高校通信 東書生物』(一九三)五

「医療とかかわりの多い聖ルイ王の像」大村敏郎『臨外』四四(五)六四〇

「医学史ミニ博物館(三四) ルイ一四世の医療スタッフ」大村敏郎『医学のあゆみ』一四八(八)五四四

「医学史ミニ博物館(三七) ルイ一四世の痔瘻手術」大村敏郎『医学のあゆみ』一四九(九)七一六

「医学史ミニ博物館(三八) ルイ一四世の手術室」大村敏郎『医学のあゆみ』一四九(一三)九四四

「阿爾麥笨老烈考(ハ一V) アルブレヒト・フォン・ローレツ考(一) 出生から内科、外科学位取得まで」田中英夫『名古屋大学史紀要』(一)三七八〇

41 伝記(双)

「緒方洪庵と精斎、鼎甫兄弟 中国・四国地区の旅」津下健哉『広島医学』四二(四)五九一—五九四

「都下 医家名墓散策 教原宗達一族」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(七)一四三四—一四三六

「シーボルトの後裔 楠本家の人々(一)」中村善紀『独協通信』(三三)九一—一

「司馬江漢と江馬春齡」片桐一男『洋学史研究』(六)七六—八〇

「高木兼寛とヘボン」(抄) 大滝紀雄『日本医史学雑誌』三五(一一)二〇五—二〇六

「高橋瑞と荻野久作」安井広『現代医学』三六(三)五六五—五七〇

「長崎浩齋と大槻玄沢」片桐一男『洋学史研究』(六)一—二〇

「中原市五郎とギージー」(抄) 新藤恵久、長谷川弥『日本歯科医学学会々誌』一六(一)三三三

「中原實先生とフォシャル」(抄) 谷津三雄、藤井敏博、佐久間優、滝口久『日本歯科医学学会々誌』一六(一)二九—三〇

「ヘボンと交流のあった人々」(抄) 高安伸子『日本医史学雑誌』三五(一)二〇七—二〇八

「ポンベと石黒忠憲」秋山房雄『保健の科学』三一(二)一一七

「曲直瀬養安院家の末裔」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(一〇)一七六五

「リケッツとプロワツェク二人とも殉職 発疹チフス病原菌の学名にその名を刻む」藤野恒三郎 *Med Tribune* 三三(一)四八

「医学史ミニ博物館(三九) 断頭台をつくった人びと」大村敏郎『医学のあゆみ』一五〇(四)二七八

42 伝染病史・防疫史

「内務省所管伝染病研究所」小高健『日本医史学雑誌』三五(四)三七三—四〇七

「旭市西足洗浜ベスト流行について」島田勉『千葉医師会誌』四一(一)八六—九〇

「ヘッカー」中世における流行病』松下正明『科学医学資料研究』(二七九)八—一一

43 東洋医学史

「神仙秘法について(一)」(抄) 上瀉口武、嶋村昭辰『日本歯科

「医史学会々誌」一六(一)二四～二五

「神仙秘法について(二)」「抄」上瀉口武、嶋村昭辰『日本歯科
医史学会々誌』一六(一)二五～二六

「統・三皇の医史学的考察(第六回)陰陽五行への反省」遠藤昭
伸『経絡治療』(九八)一〇～一五

「漢方史景二八」痔の歴史(下―五)蔵方宏昌『漢方診療』八
(二)二二～二三

「漢方史景二九」仁和寺の医書(上)蔵方宏昌『漢方診療』
八(二)二二～二三

「漢方史景三〇」仁和寺の医書(下)蔵方宏昌『漢方診療』
八(三)三八～三九

「漢方史景三一」鬼毒を殺す豆汁」蔵方宏昌『漢方診療』八
(四)四〇～四一

「漢方史景三二」全身麻酔への道(上)蔵方宏昌『漢方診療』
八(五)四二～四三

「漢方史景三三」全身麻酔への道(下)蔵方宏昌『漢方診療』
八(六)四〇～四一

「口絵目でみる漢方史料館(一七)頭山満翁揮毫の『東亜医学
協会旗』」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(二)三四六～三四七

「目でみる漢方史料館(一八)一乗谷遺跡出土の『湯液本草』残
紙」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(三)六五八～六六一

「目でみる漢方史料館(二〇)家康遺愛の医療用品―久能山東照
宮の宝物―」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(六)二二〇～

二二一三

「目でみる漢方史料館(二二)徳川綱吉筆の神農像―久能山東照
宮・仙台市博物館所蔵品―」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(七)
一三六二～一三六四

「目でみる漢方史料館(二二)永富独嘯庵の遺墨―長府博物館・
長府図書館所蔵品―」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(八)一四
八八～一四九一

「目でみる漢方史料館(二三)『万病回春』の初版本―現存唯一
の研医会図書館蔵本―」小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(九)
一五九六～一五九九

「目でみる漢方史料館(二四)戴曼公独立の肖像―小曾戸洋『漢
方の臨牀』三六(一〇)一七〇八～一七一〇

「目でみる漢方史料館(二五)日本最初の印刷医書『医書大全』」
小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(一一)一八一四～一八一六

「目でみる漢方史料館(二六)文人画にみる神農像」小曾戸洋
『漢方の臨牀』三六(一二)一九一八～一九二〇

「漢方古典文献概説(二三)南宋代の医薬書(その五)」小曾戸
洋『現代東洋医学』一〇(一)九三～九九

「漢方古典文献概説(二四)南宋代の医薬書(その六)」小曾戸
洋『現代東洋医学』一〇(二)九四～一〇三

「証」に関する認識の歴史的変遷」肖徳馨『中医臨』一〇(二)
一四六～一五二

「医聖田代三喜翁と謡曲『寢覚』」鈴木博夫『漢方の臨牀』三六
(一)三〇二～三〇六

「黄帝内経太素経」における経穴の主治症について(抄)高島

一四一

文一『日本医史学雑誌』三五(一)一七六～一七八

「『甲乙経』を構成する『三部』とは何か」谷田伸治『漢方の臨牀』三六(一)二五一～二五六

「すりばちやいと考」多留淳文、前山文子、中田和宏、中川和恵『北陸医史』一〇(一)五一

「東アジア伝統医学史年表の試み」津谷喜一郎『漢方の臨牀』三六(一)六〇三～六一一

「史記、倉公伝の番陰脈、番陽脈についての一考察」豊田白詩『漢方の臨牀』三六(一)五三三～五三七

「『四部医典』(チベット仏典)に見る断食の記載」(会)中野勝輝『アーユルヴェーダ研究』(一九)五一～五二

「『万病回春』と龔延賢」松田邦夫、稲木一元『漢方の臨牀』三六(一)二二二～二二六

「目でみる漢方史料館(一九) 現存最古の『金匱要略』一元・鄧珍刊本」真柳誠、小曾戸洋『漢方の臨牀』三六(四)九四二～九四四

「漢方古典文献概説(二五) 金代の医薬書(その一)真柳誠、小曾戸洋『現代東洋医学』一〇(三)一〇一～一〇七

「漢方古典文献概説(二六) 金代の医薬書(その二)真柳誠、小曾戸洋『現代東洋医学』一〇(四)一〇五～一一一

「Willem ten Rhijne und die japanische Medizin (I)」Wolf-gang Michel『独仏文学研究』(三九)七五～一二五

「梅花の里—東洞先生投剂証録」雑考 江戸後記の上州路の漢方瞥見—村松陸『漢方の臨牀』三六(四)一〇三四～一〇四七

「『呂氏春秋』と東洞の『万病一毒』説(上)」山本巖『漢方研究』(二〇七)二四～二八

「『呂氏春秋』と東洞の『万病一毒』説(下)」山本巖『漢方研究』(二〇八)二〇～二三

「江戸時代における医学の変遷 吉益東洞の古方とは何か？」山本巖『漢方研究』(二二四)三三二～三三六

「口絵目でみる漢方史料館(一六) 温知社遺品三点」矢数道明『漢方の臨牀』三六(一)一～五

「温知社雑筆 補氣健中湯の『健』の字について、及びその出典『濟生方』の誤りについて」矢数道明『漢方の臨牀』三六(四)九八六～九八七

「昭和六三年(一九八八)漢方略史年表」矢数道明『漢方の臨牀』三六(四)一〇五七～一〇六四

「深川本『吉益南涯門』(三) 矢数道明『漢方の臨牀』三六(四)一〇二七～一〇三三

「中国医学と道教(Ⅸ薬枕、神枕)(抄) 吉元昭治『日本医史学雑誌』三五(一)一二六～一二七

44 内 科 史

「循環器学の歴史(二五) 一九世紀の日本の循環器病学」酒井シヅ『循環科学』九(一)八二～八六

「循環器学の歴史(二六) 心電図が生まれるまで」酒井シヅ『循環科学』九(二)一八四～一八七

「循環器学の歴史(二七) 心電図計の誘導法の確立」酒井シヅ

『循環科学』九(三)三二〇～三二三

「循環器学の歴史(二八) 血圧測定の歴史」酒井シヅ『循環科学』九(四)四二八～四三一

「循環器学の歴史(二九) レントゲンと循環器病学」酒井シヅ

『循環科学』九(五)五四〇～五四三

「循環器学の歴史(三〇) 心臓カテーテル法の開発」酒井シヅ

『循環科学』九(六)六四六～六五〇

「循環器学の歴史(三一) 先天性心疾患」酒井シヅ『循環科学』九(七)七五八～七六二

「循環器学の歴史(三二) 刺激伝導系一」酒井シヅ『循環科学』九(八)八九六～八九九

「循環器学の歴史(三三) 刺激伝導系二」酒井シヅ『循環科学』九(九)九九二～九九五

「新・心をめぐる医学の歴史(一) 肺循環発見の経緯(一) ミゲル・セルヴェト」深瀬泰且『ハートナッシング』二(一)五八～六三

「新・心をめぐる医学の歴史(二) 肺循環発見の経緯(二) レアルド・コロンボ」深瀬泰且『ハートナッシング』二(一)一六六～一七一

「新・心をめぐる医学の歴史(三) 肺循環発見の経緯(三) イブ・アン・ナフィース」深瀬泰且『ハートナッシング』二(三)二八五～二九〇

「新・心をめぐる医学の歴史(四) 肺循環を最初に発見したのは誰か」深瀬泰且『ハートナッシング』二(四)三七四～三八〇

「新・心をめぐる医学の歴史(五) 血液循環論のわが国への受容」深瀬泰且『ハートナッシング』二(五)四八二～四八八

「新・心をめぐる医学の歴史(六) 心臓はいかにして収縮をくりかえすか」刺激伝導系の発見(一) 深瀬泰且『ハートナッシング』二(六)五五八～五六三

「新・心をめぐる医学の歴史(七) 心臓はいかにして収縮をくりかえすか」刺激伝導系の発見(二) 深瀬泰且『ハートナッシング』二(七)六五四～六五八

「新・心をめぐる医学の歴史(八) 心臓の神経支配(一)」深瀬泰且『ハートナッシング』二(八)七四一～七四五

「新・心をめぐる医学の歴史(九) 心臓の神経支配(二)」深瀬泰且『ハートナッシング』二(九)一〇七〇～一〇七五

「新・心をめぐる医学の歴史(一〇) 心臓は筋肉の塊である」深瀬泰且『ハートナッシング』二(一〇)一一四七～一一五二

「新・心をめぐる医学の歴史(一一) アランチウス管とポタロー管」深瀬泰且『ハートナッシング』二(一一)一二四五～一二五〇

「新・心をめぐる医学の歴史(一二) リウマチ熱(一)」深瀬泰且『ハートナッシング』二(一二)一三三三～一三三九

45 皮膚科史

「皮膚科医カボシー」長門谷洋治『日本医事新報』(三四〇六)

一一一

46 病院史

- 「私の順天堂回想録(その二)『財団法人順天堂医事研究会』創設後の発展経過」大野大『順天堂医学』三四(四)六〇二～六〇四
- 「私の順天堂回想録(その三) 医専開校と第一回生の想い出」大野大『順天堂医学』三五(一)一三四～一三五
- 「リョンのオテル・デュ病院―教会の入口」大村敏郎『臨外』四四(一二)一七六七
- 「明治前期静岡岡県の病院の推移ならびに考察」土屋重朗『地方史静岡』(一七)八六～一〇二
- 「ローレツ原案東京府癩狂院平面図」『名古屋大学史紀要』(一)口絵
- 「上田市医師会附属医学史料館報(一九八) 柳沢病院の記録(一七) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(一)一五
- 「上田市医師会附属医学史料館報(一九九) 柳沢病院の記録(一八) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(二)一四～一五
- 「上田市医師会附属医学史料館報(二〇〇) 柳沢病院の記録(一九) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(三)八～九
- 「上田市医師会附属医学史料館報(二〇一) 柳沢病院の記録(二〇) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(四)一四
- 「上田市医師会附属医学史料館報(二〇二) 柳沢病院の記録(二一) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(五)一四～一五
- 「上田市医師会附属医学史料館報(二〇三) 柳沢病院の記録(二二) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(六)九

「上田市医師会附属医学史料館報(二〇四) 柳沢病院の記録(二三) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(七)一

「上田市医師会附属医学史料館報(二〇五) 柳沢病院の記録(二四) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(八)六

「上田市医師会附属医学史料館報(二〇六) 柳沢病院の記録(二五) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(九)七

「上田市医師会附属医学史料館報(二〇七) 柳沢病院の記録(二六) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(一〇)九

「上田市医師会附属医学史料館報(二〇八) 柳沢病院の記録(二七) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(一一)一

「上田市医師会附属医学史料館報(二〇九) 柳沢病院の記録(二八) 柳沢文秋『上田市医師会報』一九(一二)八

「カルテ人間模様(二五) 野口英世(その一) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(四)一八～二〇

「カルテ人間模様(二六) 野口英世(その二) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(五)一八～二〇

「カルテ人間模様(二七) 竹久夢二(その一) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(六)一八～二〇

「カルテ人間模様(二八) 竹久夢二(その二) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(七)一八～二〇

「カルテ人間模様(二九) 竹久夢二(その三) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(八)一八～二〇

47 病跡学

- 「カルテ人間模様(二五) 野口英世(その一) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(四)一八～二〇
- 「カルテ人間模様(二六) 野口英世(その二) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(五)一八～二〇
- 「カルテ人間模様(二七) 竹久夢二(その一) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(六)一八～二〇
- 「カルテ人間模様(二八) 竹久夢二(その二) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(七)一八～二〇
- 「カルテ人間模様(二九) 竹久夢二(その三) 立川昭二『東洋薬事報』三〇(八)一八～二〇

「カルテ人間模様(三〇) 宮沢賢治(その一)」立川昭二『東洋薬事報』三〇(九) 一八～二〇

「カルテ人間模様(三一) 宮沢賢治(その二)」立川昭二『東洋薬事報』三〇(一〇) 一八～二〇

「カルテ人間模様(三二) 宮沢賢治(その三)」立川昭二『東洋薬事報』三〇(一一) 一八～二〇

「カルテ人間模様(三三) 宮沢賢治(その四)」立川昭二『東洋薬事報』三〇(一二) 一八～二〇

「カルテ人間模様(三四) 斎藤茂吉(その一)」立川昭二『東洋薬事報』三一(一) 一八～二〇

「カルテ人間模様(三五) 斎藤茂吉(その二)」立川昭二『東洋薬事報』三一(二) 一八～二〇

「カルテ人間模様(三六) 斎藤茂吉(その三)」立川昭二『東洋薬事報』三一(三) 一〇～一二

49 風俗史

「平安・鎌倉時代の妊婦腹帯」藏方宏昌『民俗と衣裳』高橋春子編 衣の民俗館 九五～一〇七

51 法医学史

「看護業務等の法的責任—看護事故判例の研究(二)—」菅野耕毅『医事学研究』(四) 一～一〇四

53 本草学・博物学史

「朝倉の医学を識る資料(湯液本草)について」岩治勇一『福井県医師会だより』(三三九) 一〇～一一

「加賀藩に於ける食物本草に関する文書の点描と堀部養佐著『食物私説』について」加藤豊明『北陸医史』一〇(一) 二八～三四

「岡山県内の古寺院天井の植物絵について(第二報) 西之坊、松連寺本堂の天井絵」土岐隆信、市川俊介、奥田拓男『薬史学雑誌』二四(一) 六一～六六

「生薬蝸牛の研究(第一報) 本草学的研究および中国東北地区市場品の検討」浜田善利、高士賢、難波恒雄『薬史学雑誌』二四(一) 二三～三六

「阿波藩撰博物誌『阿淡産志』について」福島義一『醫譚』(五七) 六～一一

「新発見『小品方』巻一一・本草篇の研究その旧態と本草学的価値」真柳誠『薬史学雑誌』二四(一) 三七～四六

「飯沼窓斎の標本について」山崎敬『窓斎研究会だより』(四五) 二～六

54 麻醉学史

「麻醉学書誌学的研究(第四増)」『外科手術關鍵上・下巻』について(抄) 石橋肇、吉井秀鑄、山口秀紀、馬場亮司、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一六(一) 五八～五九

「日本の麻醉の歴史」こぼれ話 日本へのケシの渡来と阿片の生産

について」(抄) 松木明知『日臨麻会誌』九(六) 七九

55 門人録

「ハ資料紹介」江戸時代京都医家門人帳にみる但馬国出身者」杉立義一『啓迪』(七) 二二二~二二七

「知られざる適塾生達」芝哲夫『適塾』(二二) 八~一四

「適塾門下生『高井泰造』について」高井史男『適塾』(二二) 一一一~一一三

「適塾門下生調査資料(高井泰造)」高井史男『適塾』(二二) 一三三~一三四

「適塾門下生に関する調査報告(九)」芝哲夫『適塾』(二二) 一三五~一七〇

56 薬学史

「万病錦袋圖と了翁禪師の生涯」天野宏、斎藤明美、杉原正泰『薬史学雑誌』二四(二) 一二五~一三〇

「医学史ミニ博物館(三三) 最初の医学界新聞と解熱剤」カクキナル」大村敏郎『医学のあゆみ』一四八(二二) 八二~八六

「近世の朝廷(禁裏) 典薬頭」宗田一『啓迪』(七) 一~四

「日本の売薬 御免売薬」宗田一『医薬ジャーナル』二五(四) 九一九~九二二

「日本の売薬 近世初期の売薬」宗田一『医薬ジャーナル』二五(五) 一一五五~一一五八

「日本の売薬 小山御湯薬ほか」宗田一『医薬ジャーナル』二五

(六) 一三九八~一四〇一

「教科書にみる薬剤学の進歩」金庭延慶『薬史学雑誌』二四(一) 六七~七四

「ノード Early European Influences on Japanese Pharmacy」Wolfgang Götz『薬史学雑誌』二四(一) 一一〇~一一三

「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(Ⅰ) 日中医療史からみた薬物の統合的認識について」高橋晟『薬史学雑誌』二四(二) 一一二~一一五

「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(Ⅱ) 一般用医薬品の評価に際して留意すべき生理学的統合性と薬理学的特性」高橋晟『薬史学雑誌』二四(二) 一一六~一二二

「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(Ⅲ) 薬力学的統合性からみた医薬品評価試験法の特異性とその位置づけ」高橋晟『薬史学雑誌』二四(二) 一二三~一二六

「古代ギリシア薬物学の一考察 テオフラストス『植物誌』第九巻をめぐって」月川和雄『薬史学雑誌』二四(一) 七五~八一

「日本占領下のフィリピン薬用植物研究(上)」津谷喜一郎『日本医事新報』(三四一〇) 六一~六五

「日本占領下のフィリピン薬用植物研究(下)」津谷喜一郎『日本医事新報』(三四一一) 六五~六八

「西洋と日本の薬局、処方箋の正しい調剤の始まり」(抄) 中室嘉祐『日本医史学雑誌』三五(二) 一五三~一五五

「薬の携帯とその容器の史的研究(一) 印籠」服部昭、杉原正泰『薬史学雑誌』二四(二) 一五〇~一五七

「阿蘇坂裂における人参栽培の事蹟」浜田善利『薬史学雑誌』

二四(一)一九〇二

「肥後細川藩の御薬園、蕃滋園の扁額について」浜田善利『薬史学雑誌』二四(一)二二七～二二九

「明治期を中心とした中国産繁用生薬の輸入についての考察(一)とくに第二期における大黃の輸入量、ならびに価格の変遷について」播磨章一『薬史学雑誌』二四(一)九四～一〇三

「明治期を中心とした中国産繁用生薬の輸入についての考察(二)とくに第三期における大黃の輸入量、ならびに価格の変遷について」播磨章一『薬史学雑誌』二四(一)一〇四～一一四

「明治期を中心とした中国産繁用生薬の輸入についての考察(四)とくに第四期における大黃の輸入量、ならびに価格の変遷について」播磨章一、田中康雄『薬史学雑誌』二四(二)一九五～二二一

「昭和時代(一九二六～一九八九)調剤学の変遷」堀岡正義『薬史学雑誌』二四(一)九～一八

「近代薬学導入期における東海地方の学者の貢献」安江政一『惣斎研究会だより』(四七)二～五

「日本薬局方に見られたヨード製剤の変遷」松本仁人、山田光男『薬史学雑誌』二四(一)八二～九三

「医薬品広告にみる日米のくすり観」松山圭子『社会薬学』八(一)三四～四五

「医薬科学技術の近現代史素描(一)」山川浩司『薬史学雑誌』二四(一)一～八

57 蘭学史

「大阪のオランダ医学とその背景」石田純郎『適塾』(二二)二三～三五

「教育の近代化と蘭学」石附実『無限大』(八三)四七～五一

「比較文明的に見た蘭学」伊東俊太郎『無限大』(八三)四五～四七

「小形元助の砲術印影 大野藩西洋砲術の元祖」岩治勇一『しろかねのつと』(四)七

「オランダから見た日本」ウィレム・レメリンク『無限大』(八三)二四～三〇

「蘭学は本当に『ガラス窓』だったか」ウィレム・レメリンク『無限大』(八三)五二～五三

「適塾の歴史的評価をめぐって」梅溪昇『適塾』(二二)六七～六九

「日蘭の交易をささえたもの」角山榮『無限大』(八三)四〇～四一

「オランダ渡りの科学技術」金子務『無限大』(八三)三一～三三

「適々斎塾創設の頃」酒井シヅ『適塾』(二二)五五～六一

「日蘭修好三八〇周年記念行事の概要」芝哲夫『適塾』(二二)七八～八二

「日本とオランダ」司馬遼太郎『無限大』(八三)一二～一九

「地域社会における蘭学」田崎哲郎『適塾』(二二)六二～六六

「適塾記念会の歩み(その一六)」中川八郎『適塾』(二二)

一七一～一七六

「洪庵・適塾と大坂」西尾正也『適塾』(二二) 一～二

「まず南蛮学から見よ」伴忠康『無限大』(八三) 五一～五二

「日本の近代化と適塾」ひろたまさき『適塾』(二二) 四四～

五四

「適塾の塾生達と日本の近代化」藤田実『適塾』(二二) 三～七

「杉田玄白が予見したものは何か」吉田忠『無限大』(八三)

四四～四五

「日蘭の科学技術交流について」吉田光邦『無限大』(八三)

三八～四〇

「討論 蘭学の受容とアダプテーション」吉田光邦、角山榮、伊

東俊太郎、石附実、吉田忠、伴忠康、W・レメリンク、金子務

『無限大』(八三) 五六～六四

「討論『適塾の歴史の意義について』のまとめ」脇田修『適塾』

(二二) 七五～七七

「『大阪とオランダ』展と記念冊子の刊行」脇田修『適塾』(二二)

八三～八五

59 その他

「文学にみる医師像(一) 医術への飽くなき探究」華岡青洲の

妻』右遠俊郎『月刊保団連』(三〇四) 六四～六七

「文学にみる医師像(二) 悪魔の所業を描く」右遠俊郎『月刊保

団連』(三〇六) 六〇～六三

「文学にみる医師像(三) 時代の狂気を冷静にみつめる」イペリ

ット眼」右遠俊郎『月刊保団連』(三一) 五四～五七

「医学を支える情報の歴史」大村敏郎『あいまっく』一〇(一)

一一～一七

「鎌倉幕府の京下官医受容形態の考察」(抄) 奥富敬之『日本医

史学雑誌』三五(二) 二一～二二

「前野蘭化の自画自賛について」木村陽二郎『日本医史学雑誌』

三五(四) 四三〇～四三八

「医史学と私―遍歴の跡―」久志本常孝『日本医史学雑誌』三五

(三) 二七七～二八六

「表紙のことは ユダヤ人の婚姻契約書」酒井シヅ『手術』四三

(一) 三六

「表紙のことは 舞踏病」酒井シヅ『手術』四三(二) 一三七

「表紙のことは スワドリングと乳児」酒井シヅ『手術』四三

(二) 二五三

「表紙のことは 乳児栄養」酒井シヅ『手術』四三(四) 四五四

「表紙のことは ジフテリアの治療」酒井シヅ『手術』四三(五)

五〇七

「表紙のことは フランスの共和歴三年風月一日」酒井シヅ

『手術』四三(七) 八四〇

「表紙のことは 黄熱病」酒井シヅ『手術』四三(八) 九七三

「表紙のことは 聖ルードウィッヒの奇跡」酒井シヅ『手術』

四三(九) 一一三九

「表紙のことは 一六世紀のドイツの外科書から」酒井シヅ『手

術』四三(一〇) 一四二七

「表紙のことは 下肢切断術」酒井シヅ『手術』四三(一一)
一四六九

「表紙のことは 三人の歩行障害者」酒井シヅ『手術』四三
(一一)一五八二

「表紙のことは 骨折した脚の伸張器」酒井シヅ『手術』四三
(一一)一七一四

「牡丹の図」酒井シヅ CLINICIAN 三六(三七)二一四

「順天堂大学創立一五〇周年記念講演 歴史を変えた医学」司馬
遼太郎『順天堂医学』三四(四)五七一―五八一

「備前瘤」新宮義弘(発行)新宮義弘(非売品)

「『解体新書』を生み出したエネルギーと情熱」長門谷洋治『大
阪保険医雑誌』(二四九)二〇―二三

「医の博物館オープン」(抄)中原泉『日本歯科医史学会々誌』
一六(一一)九

「ヨーロッパにおける“遊び”の概念と医史学への影響」(抄)
グレゴル・パウル『日本医史学雑誌』三五(二)一一五―
一一六

「科学技術フォーラム」について 伴忠康『適塾』(二二)九三
―一〇二

「視覚・触覚・運動感覚」三浦雅弘『哲学論集』(一八)一七―
二八

「これからの大学病院への期待」柳田邦男『順天堂医学』三四
(四)五八二―五九七

「医史学と私」山中太木『日本医史学雑誌』三五(三)二八七―

二九一

「楷の木の木蔭に楷を語る」(抄)山中太木、藤本十四秋、瀧上
順三『日本医史学雑誌』三五(二)一一一―一二二

60 中国語文献

「北宋時期耳鼻咽喉科的發展」吳博華、吳博亞『中華医史雜誌』
一九(一)一―三

「回憶抗日戰爭時期的華中學院」李坡『中華医史雜誌』一九(一)
八―一〇

「秦漢時期灸療學成就初探」李正安『中華医史雜誌』一九(一)
四―七

「解放戰爭時期第二野戰軍的衛生工作」李開興『中華医史雜誌』
一九(一)一一―一五

「冉雪峰生平考証」王席国等『中華医史雜誌』一九(一)一六―
一九

「陰陽十一脈灸經」研究―兼論經絡体系的形成与發展」廖育群
『中華医史雜誌』一九(一)二〇―二四

「中国歴史上第一部薬典著作考弁」王黙『中華医史雜誌』一九
(一)二五―二七

「小児医方妙選」輯復的研究(摘要)郭珍『中華医史雜誌』
一九(一)二八―三二

「瘍科薬紙の文献研究(摘要)」潘平『中華医史雜誌』一九(一)
三三―三七

「歴代『金匱要略』專著研究(摘要)」杜曉玲『中華医史雜誌』

一九(一)三八~四二

「中西解剖思想中的價值觀比較」常存庫『中華醫史雜誌』一九

(一)四三~四六

「鄂倫春族醫藥學調查研究」徐維廉等『中華醫史雜誌』一九

(一)四七~五一

「蒙古族名醫察哈爾格西羅布桑蘇勒和木」陶蘇和『中華醫史雜

誌』一九(一)五二~五三

「近代醫學史上的一位名醫——紀念威廉·奧斯勒誕辰一四〇周年」

張大慶『中華醫史雜誌』一九(一)五四~六〇

「心身醫學的歷史」劉濤、朱春潤『中華醫史雜誌』一九(一)

六一~六四

「清儒研治『內經』及其對中日醫界的影響」張如青『中華醫史雜

誌』一九(一)六五~七〇

「明清至解放前養生學發展史概」李春生『中華醫史雜誌』一九

(一)七一~七五

「孫思邈醫學思維規律探析」林功鏞『中華醫史雜誌』一九(一)

七六~七九

「中華民國的衛生組織(一九一二~一九四九)」龔純『中華醫史

雜誌』一九(一)八〇~八五

「閩西蘇區紅軍醫院概況」華碧春、謝濟堂、傅國興『中華醫史雜

誌』一九(一)八六~八八

「哈爾濱漢醫研究會的創弁」王鉄策『中華醫史雜誌』一九(一)

八九~九三

「宮乃泉生平述略」王朱『中華醫史雜誌』一九(一)九四~九七

「郭光武教授生平事略」崔秀漢『中華醫史雜誌』一九(一)九八

「海南島北部地區鼠疫流行史料」林詩泉『中華醫史雜誌』一九

(一)一〇〇~一〇一

「我國近代藥學史給人的啓示」陳新謙『中華醫史雜誌』一九

(一)一〇二~一〇六

「地胆、斑蝥在我國古代的醫療應用及其考証」宋之琪、王広生

『中華醫史雜誌』一九(一)一〇七~一一〇

「古代西亞和古代埃及藥學史初探」許光『中華醫史雜誌』一九

(一)一一一~一一五

「國外藥學道德發展簡史」吳肇華『中華醫史雜誌』一九(一)

一一六~一一八

「蒙醫學家伊希巴拉珠爾」巴·吉格木德『中華醫史雜誌』一九

(一)一一九~一二〇

「五十二病方」醫方流長選探」孫啓明『中華醫史雜誌』一九

(一)一二一~一二四

「論『吳普本草』和『本草經集注』之關係」尚志鈞『中華醫史雜

誌』一九(一)一二五~一二八

「『本草品彙精要』版本及其源流考察」曹暉等『中華醫史雜誌』

一九(一)一二九~一三四

「『太幸御覽』中的醫藥學內容概論」李良松『中華醫史雜誌』

一九(一)一三五~一四〇

「『本草綱目』對血証的貢獻」朱明方、王平『中華醫史雜誌』

一九(一)一四一~一四三

- 「股代按摩術管窺」彭堅『中華醫史雜誌』一九(三)一四四—一四七
- 「鼻淵源流初探」李浩『中華醫史雜誌』一九(三)一四八—一五二
- 「鐘章元及其『傷寒括要』」陸書誠『中華醫史雜誌』一九(三)一五三—一五五
- 「清代台灣醫林人物」肖林榕『中華醫史雜誌』一九(三)一五六—一五九
- 「丹東口岸地區霍亂疫史考」強榆林、孫連加『中華醫史雜誌』一九(三)一六〇—一六二
- 「宋金元時期藥性理論主要成就初探(摘要)」鍾贛生『中華醫史雜誌』一九(三)一六三—一六九
- 「病毒學的形成和發展簡述」劉學禮『中華醫史雜誌』一九(三)一七〇—一七五
- 「近代醫學化學思想的先驅帕拉塞爾蘇斯」黎雲『中華醫史雜誌』一九(三)一七六—一八一
- 「研究腎炎的先驅者布賴特——紀念布賴特誕辰二〇〇周年」劉盈『中華醫史雜誌』一九(三)一八二—一八四
- 「『四部醫典』蒙訊問題初探」雲登『中華醫史雜誌』一九(三)一八五—一八八
- 「蒙醫“哈那忽”療法考」博·阿古拉『中華醫史雜誌』一九(三)一八九—一九〇
- 「史仲序著『中國醫學史』評述」趙石麟『中華醫史雜誌』一九(三)一九一—一九三
- 「清末民國時期遼寧醫藥衛生史略」于永敏『中華醫史雜誌』一九(四)一九三—一九九
- 「陝西的衛生組織機構(一九三一—一九四九)」辛智科『中華醫史雜誌』一九(四)二〇〇—二〇四
- 「憶遼沈戰役的戰傷救護」馬隄、趙瑩『中華醫史雜誌』一九(四)二〇五—二〇六
- 「中國護理專業早期發展史中若干問題的探討」李志平、徐維廉『中華醫史雜誌』一九(四)二〇七—二一〇
- 「論楊則民的『內經』哲學觀」李似珍『中華醫史雜誌』一九(四)二一一—二一五
- 「近代名醫陳蓮舫」余永燕『中華醫史雜誌』一九(四)二一六—二一九
- 「劉奎及有關的幾箇問題」張殿民『中華醫史雜誌』一九(四)二二〇—二二二
- 「唐代醫家王燾的家世」補正」李平『中華醫史雜誌』一九(四)二二三—二二四
- 「柳寶詒生平事跡新証」張耀宗『中華醫史雜誌』一九(四)二二五—二二六
- 「日本東京國立博物館藏針灸銅人來歷的新說」廖果『中華醫史雜誌』一九(四)二二七—二二九
- 「蓋俞与近代西方醫學」聶菁葆『中華醫史雜誌』一九(四)二三〇—二三三
- 「『四部醫典』中針灸術初探」傅芳『中華醫史雜誌』一九(四)二三四—二三七
- 「清代蒙醫藥學家占布拉道爾吉考」額日很巴圖『中華醫史雜誌』一九(四)二三四—二三七

一九(四)二三八~二三九

「舞族『查詩拉書』之醫學探討」閔祥祖『中華醫史雜誌』一九

(四)二四〇~二四一

「明清時期徽版醫籍及其醫史作用」童光東『中華醫史雜誌』一九

(四)二四二~二四六

「馬王堆帛書埋胞函考証」潘遠根『中華醫史雜誌』一九(四)二

四七~二五〇

「從『新安醫學』的兩種提法看地方醫史研究中一箇值得注意的問題」翟志強、宋柏林『中華醫史雜誌』一九(四)二五一~二五二

「『中醫人物詞典』讀後」張松耕『中華醫史雜誌』一九(四)

二五三~二五四

「對『中醫詞典』意見的答復」『中醫人物詞典』編『中華醫史雜誌』一九(四)二五五

61 歐文文獻

BURNHAM, John C.: American Physicians and Tobacco Use;

Two Surgeons General, 1929 and 1964. BULL. HIST. MED.

63(1), 1~31

NYE, Robert A.: Sex Difference and Male Homosexuality in

French Medical Discourse, 1830~1930. BULL. HIST. MED.

63(1), 32~51

MITCHINSON, Wendy: The Toronto and Gladesville Asyl-

lums; Humane Alternatives for the Insane in Canada and

Australia? BULL. HIST. MED. 63(1), 52~72

SMITH, Wesley D.: Notes on Ancient Medical Historiography.

BULL. HIST. MED. 63(1), 73~109

WEINER, Dora, B.: Texts and Documents: Esquirol's Patient

Register: The First Private Psychiatric Hospital in Paris,

1802~1808. BULL. HIST. MED. 63(1), 110~120

ROSENBERG, Charles E.: Body and Mind in Nineteenth-

Century Medicine; Some Clinical Origins of the Neurosis

Construct. BULL. HIST. MED. 63(2), 185~197

HOY, Suelien & NUGENT, Walter: Public Health or Protec-

tionism? The German-American Pork War, 1880~1891.

BULL. HIST. MED. 63(2), 198~224

MORAN, Bruce T.: Court Authority and Chemical Medicine;

Moritz of Hessen, Johannes Hartmann, and the Origin of

Academic *Chemiatria*. BULL. HIST. MED. 63(2), 225~246

BULLOUGH, Vern I.: The Fielding H. Garrison Lecture;

The Physician and Research into Human Sexual Behavior

in Nineteenth-Century Germany. BULL. HIST. MED. 63

(2), 247~267

MORGAN, Wesley G.: Notes and Comments: Freud's Litho-

graph of Charcot; A Historical Note. BULL. HIST. MED.

63(2), 268~272

DOWBIGGIN, Ian: French Psychiatry and the Search for a

Professional Identity; The Société Médico-Psychologique,

1840~1870. BULL. HIST. MED. 63(3), 331~355

- LÖWY, Hana: Biomedical Research and the Constraints of Medical Practice; James Bumgardner Murphy and the Early Discovery of the Role of Lymphocytes in Immune Reactions. BULL. HIST. MED. 63(3): 356~391
- HUDSON, Robert P.: Theory and Therapy; Ptois, Stasis, and Autointoxication. BULL. HIST. MED. 63(3), 392~413
- HAMILTON, Diane : The Cost of Caring: The Metropolitan Life Insurance Company's Visiting Nurse Service, 1909~1953. BULL. HIST. MED. 63(3), 414~434
- TRÖHLER, Ulrich: Graduate Education in the History of Medicine; Federal Republic of Germany. BULL. HIST. MED. 63(3), 435~443
- ATWATER, Edward C.: American Association for the History of Medicine: Report of the Sixty-second Annual Meeting. BULL. HIST. MED. 63(3), 444~454
- DELACY, Margaret: Puerperal Fever in Eighteenth-Century Britain. BULL. HIST. MED. 63(4), 521~556
- HUTCHINSON, John F.: Rethinking the Origins of the Red Cross. BULL. HIST. MED. 63(4), 557~578
- BRAND, Jeanne L.: The United States Public Health Service and International Health, 1945~1950. BULL. HIST. MED. 63(4), 579~598
- ROGERS, Naomi: Germs with Legs; Flies, Disease, and the New Public Health. BULL. HIST. MED. 63(4), 599~617
- WEBB, Martha E.: The Early Medical Studies and Practice of Dr. David Hartley. BULL. HIST. MED, 63(4), 618~636
- BONNER, Thomas N.: Rendezvous in Zurich; Seven Who Made a Revolution in Women's Medical Education, 1864~1874. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(1), 7~27
- ACCARDO, Pasquale: William John Little (1810~1894) and Cerebral Palsy in the Nineteenth Century. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(1), 56~71
- COONS, Ronald E.: Steamships and Quarantines at Trieste, 1837~1848. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(1), 28~55
- FLAUMENHAFT, Eugene & FLAUMENHAFT, Carol: American Nursing and the Road Not Taken. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(1), 72~89
- HOLMES, Frederic L.: Thomas Rogers Forbes, 1911~1988, Anatomist, Medical Educator, and Historian of Medicine. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(2), 154~159
- JACKSON, Stanley W.: Robert Burton and Psychological Healing. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(2), 160~178
- ESTES, J. Worth & DYE, Ira: Death on the *Argus*; American Medical Malpractice *versus* British Chauvinism in the War of 1812. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(2), 179~195
- ADAMS, David P.: Wartime Bureaucracy and Penicillin Allocation; The Committee on Chemotherapeutic and Other

- Agents, 1942~44. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(2), 196~217
- LOUIS, Elan D.: William Shippen's Unsuccessful Attempt to Establish the First "School for Physick" in the American Colonies in 1762. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(2), 218~239
- MASSEY, Robert U: William Bennett Bean, 1909~1989, Clinical Scholar and Historian of Medicine. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(3), 285~287
- JARCHO, Saul: Some Observations and Opinions on the Present State of American Medical Historiography. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(3), 288~290
- JARCHO, Saul: The Style of Zacutus Lusitanus and its Origins. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(3), 291~295
- CHEERNIN, Eli: Richard Pearson Strong and the Manchurian Epidemic of Pneumonic Plague, 1910~1911. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(3), 296~319
- GREY, Michael R.: Poverty, Politics, and Health; The Farm Security Administration Medical Care Program, 1935~1945. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(3), 320~350
- THIELMAN, Samuel B.: Community Management of Mental Disorders in Antebellum America. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(3), 351~374
- WILSON, Leonard G.: Dorothy M. Schullian, 1906~1989, A Humanist Historian of Renaissance Medicine. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(4), 421~429
- OLCH, Peter D.: Evarts A. Graham in World War I; The Empyema Commission and Service in the American Expeditionary Forces. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(4), 430~446
- KASS, Amalie M.: Western Medicine in Nineteenth-Century Jerusalem. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(4), 447~461
- HOOLIHAN, Christopher: Health and Travel in Nineteenth-Century Rome. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(4), 462~485
- ROGERS, Naomi: Dirt, Flies, and Immigrants: Explaining the Epidemiology of Poliomyelitis, 1900~1916. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 44(4), 486~505
- TANSEY, E.N.: The Wellcome Physiological Research Laboratories 1894~1904; the Home Office, pharmaceutical firms, and animal experiments. MED. HIST. 33(1), 1~41
- DUFFIN, Jacalyn M.: The cardiology of R.T.H. Laennec. MED. HIST. 33(1), 42~71
- ANSELMANT, Raymond, A: Smallpox in seventeenth-century English literature: reality and the metamorphosis of wit. MED. HIST. 33(1), 72~95
- BARKAI, Ron: A medieval Hebrew treatise on obstetrics. MED. HIST. 33(1), 96~114

- SHORTER, Edward: Women and Jews in a private nervous clinic in late nineteenth-century Vienna. *MED. HIST.* 33(2), 149~183
- JÜTTE, Robert: A seventeenth-century German barber-surgeon and his patients. *MED. HIST.* 33(2), 184~198
- CARPENTER, Peter K.: Thomas Arnold: a provincial psychiatrist in Georgian England. *MED. HIST.* 33(2), 199~216
- SYKES, A.H.: A.D. Waller and the University of London Physiological Laboratory. *MED. HIST.* 33(2), 217~234
- HOULISTON, V.H.: Sleepers awake: Thomas Moffet's challenge to the College of Physicians of London, 1584. *MED. HIST.* 33(2), 235~246
- ALLAN, Nigel: Illustrations from the Wellcome Institute Library; A Polish rabbi's circumcision manual. *MED. HIST.* 33(2), 247~254
- PORTER, Roy & PORTER, Dorothy: The rise of the English drugs industry; the role of Thomas Corbyn. *MED. HIST.* 33(3), 277~295
- van LIEBURG, M.J. and MARLAND, Hilary: Midwife regulation, education, and practice in the Netherlands during the nineteenth century. *MED. HIST.* 33(3), 296~317
- HIRST, J. David: The growth of treatment through the School Medical Service, 1908~18. *MED. HIST.* 33(3), 318~342
- STOKES, T.N.: A Coleridgean against the medical corporations; John Simon and the parliamentary campaign for the reform of the medical profession 1854~58. *MED. HIST.* 33(3), 343~359
- CAMPBELL, Linda: Wet-nurses in early modern England; some evidence from the Townshend archive. *MED. HIST.* 33(3), 360~370
- ROLAND, Charles G.: An underground medical school in the Warsaw ghetto, 1941~42. *MED. HIST.* 33(4), 399~419
- JACYNA, L.S.: Au lit des malades; A.F. Chomel's clinic at the Charité, 1828~29. *MED. HIST.* 33(4), 420~449
- van HEYNINGEN, E.B.: Agents of empire; the medical profession in the Cape Colony, 1880~1910. *MED. HIST.* 33(4), 450~471
- BONNER, Thomas Neville: Abraham Flexner as critic of British and Continental medical education. *MED. HIST.* 33(4), 472~479
- LAURENCE, B.R.: "Barbadoes leg"; filariasis in Barbados, 1625~1900. *MED. HIST.* 33(4), 480~488
- BAKER, P.A.: Illustrations from the Wellcome Institute Library; The National Birthday Trust Fund records in the Contemporary Medical Archives Centre. *MED. HIST.* 33(4), 489~494
- COOK, Harold: Policing the Health of London; The College

- of Physicians and the Early Stuart Monarchy. SOC. HIST. MED. 2(1), 1~33
- McFARLANE, Neil: Hospitals, Housing and Tuberculosis in Glasgow, 1911~51. SOC. HIST. MED. 2(1), 35~58
- FISSELL, Mary E.: The "Sick and Drooping Poor" in Eighteenth-Century Bristol and its Region. SOC. HIST. MED. 2(1), 60~85
- FLINT, Valeric J.: The Early Medieval "Medicus", The Saint—and the Enchanter. SOC. HIST. MED. 2(2), 127~145
- MACNICOL, John: Eugenics and the Campaign for Voluntary Sterilization in Britain Between the Wars. SOC. HIST. MED. 2(2), 147~169
- HARRISON, Barbara: Some of Them Gets Lead Poisoned'; Occupational Lead Exposure in Women, 1880~1914. SOC. HIST. MED. 2(2), 171~195
- DOBSON, Mary J.: Mortality Gradients and Disease Exchanges; Comparisons from Old England and Colonial America. SOC. HIST. MED. 2(3), 259~298
- MACDONALD, Michael: Lunatics and the State in Georgian England. SOC. HIST. MED. 2(3), 299~314
- HANNAWAY, Caroline: Medicine and Religion in Pre-Revolutionary France; Introduction. SOC. HIST. MED. 2(3), 315~320
- WEINER, Dora: The Brothers of Charity and the Mentally Ill in Pre-Revolutionary France. SOC. HIST. MED. 2(3), 321~338
- JONES, Colin: Sisters of Charity and the Ailing Poor. SOC. HIST. MED. 2(3), 339~348
- NEUMANN, Josef: Der historisch-soziale Ansatz medizinischer Wissenschaftstheorie von Ludwik Fleck (1896~1961). Sudhoffs Archiv 73(1), 12~25
- FELDMANN, Harald: Martin Luthers Anfallsleiden. Sudhoffs Archiv 73(1), 26~44
- RIHA, Ortrun: Vom "Canon" Avizennas zur Bildbeischrift des "Wundenmanns". Voruntersuchungen zur Transformation literarischer Gattungen am Beispiel des "Arzneibuchs" Ortolds von Baierland. Sudhoffs Archiv 73(1), 45~54
- BENZENHÖFER, Udo: Zum Brief des Johannes Oporinus über Paracelsus. Die bislang älteste bekannte Briefüberlieferung in einer "Oratio" von Gervasius Marstaller. Sudhoffs Archiv 73(1), 55~63
- LANGHOLF, Volker: Beobachtungen zur Struktur einiger Traktate des "Corpus Hippocraticum". Sudhoffs Archiv 73(1), 64~77
- SABLIK, Karl: Hering, Vintschgau und das Problem der Nachfolge Purkinjes. Sudhoffs Archiv 73(1), 78~87
- BUTZENBERGER, Klaus und FEDOROVA, Mariana: We-

- chselfbeziehungen zwischen Buddhismus und klassischer indischer Medizin. Sudhoffs Archiv 73(1), 88~109
- LORENZ, Bernd: Arztlob in der Provinz. Bemerkungen zu zwei antiken Grabgedichten aus Triikka (Thessalien). Sudhoffs Archiv 73(1), 110~117
- HILDEBRAND, Reinhard: Der Würzburger Anatom Albert von Koelliker in seiner Beziehung zu Camillo Golgi und Santiago Ramón y Cajal. Sudhoffs Archiv 73(2): 145~155
- STAMM-KUHLMANN, Thomas: Die Cholera von 1831. Herausforderungen an Wissenschaft und staatliche Verwaltung. Sudhoffs Archiv 73(2), 176~189
- TRIEBEL-SCHUBERT, Charlotte: Medizin und Symmetrie. Zur Verwendung eines mathematischen Begriffes in den frühen Schriften des Corpus Hippocraticum. Sudhoffs Archiv 73(2), 190~199
- WIESING, Urban: Die Bamberger Glashüttengeschichte. Ein Beispiel für Medizin und Umweltschutz im frühen 19. Jahrhundert. Sudhoffs Archiv 73(2), 200~207